

兵庫県精神保健福祉センター 年報

平成29年度

はじめに

平成 29 年度一年間の当センターの事業実績をここにご報告いたします。

アルコール健康障害対策基本法や IR 法の成立、ゲーム障害が ICD に加わるなど、依存症に対する社会的な情勢や認識は大きく変わりつつあります。当センターでも、依存症に関するご相談が増えています。これまで、薬物問題の専門相談や、薬物問題家族教室を行なってきましたが、それに加えて、平成 30 年 1 月から、当センター内に依存症対策センターを設置して、専用の電話回線による電話相談を開始しています。

当センターでは、思春期・薬物問題を含めた相談事業、集団指導として、ひきこもり・家庭内暴力・薬物問題の各家族教室と、ひきこもりの当事者グループ指導を行っています。ひきこもり当事者グループ指導は、居場所提供を目的とした、従来からのグループ活動（WING）に加えて、SST などを実施してソーシャルスキルを高め社会参加をめざすことを目的としたひきこもり当事者の社会参加に向けたワークショップ（WING+F）を、実施しています。グループ活動への参加が増え、参加者たちが自信と意欲を高めるという良い効果がみられています。グループを卒業し社会参加を果たした人たちを対象としたサロンのような WING+S も開催しています。

また、平成 28 年度から、措置患者の退院後の支援を行なう精神障害者継続支援体制構築事業が実施され、当センターは、各地域の継続支援チームへの技術指導と、継続支援連絡会を開催して、各地域の情報交換と研修を行なっています。

精神医療審査会業務は、書類審査件数、中でも入院届数が増加していることと、改正精神保健福祉法により審査会業務が強化されたことから、平成 25 年 3 月 21 日より審査会委員の増員を行いました。退院請求件数も増えていますが、迅速で公正な対応に努めています。

自立支援医療及び精神障害者保健福祉手帳の判定、交付の件数も年々増加しており、マイナンバー制度が開始されたことも加わって、当センター業務に占める割合がますます増大しています。市町担当者を対象とした説明会を開催するほか、事務処理についての Q&A を作成して市町担当者に配布するとともに、手帳・医療の診断書の記載上の留意点を取りまとめ、医療機関に配布し、適正かつ迅速な処理に努めています。

センターとして、より専門的な事業に取り組みたい反面、年々増加する法定業務に職員が忙殺されているのが悩みですが、これからも、センター活動の更なる充実を目指して努力して参りますので、どうぞ、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 10 月

兵庫県精神保健福祉センター
所長 酒井 ルミ

目 次

I 概 況

1	概 況	1
2	沿 革	2
3	施 設	3
4	組 織	5
5	職 員	6

II 精神保健福祉センター事業

1	技 術 支 援	(1) 技術指導・技術援助	7
		(2) 地域ケアサポートチーム	7
		(3) その他	7
2	教 育 研 修	(1) 研修会	10
		(2) 実習の受け入れ	10
3	普 及 啓 発	(1) 講習会・講演会	15
		(2) 印刷物の発行	15
		(3) ビデオ・パネル貸し出し	15
		(4) ホームページの作成	15
4	調 査 ・ 研 究		18
5	精神保健福祉相談	(1) 来所相談	20
		(2) 電話相談	24
		(3) 集団指導事業	28
6	組 織 育 成		39
7	精神医療審査会事務		40
8	自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳の判定・交付		41
9	自 殺 対 策		43
10	依存症対策センター		45

III 資 料

1	ビデオ目録	49
2	パネル目録	56

I 概 況

1 概 況

精神保健福祉センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 6 条に基づき設置された機関で、都道府県における精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための技術的中核機関である。

精神保健福祉センター運営要領（平成 8 年 1 月 19 日健医発第 57 号厚生省保健医療局長通知）による精神保健福祉センターの目標は、地域住民の精神的健康の保持増進、精神障害の予防、適切な精神医療の推進から社会復帰の促進、自立と社会経済活動への参加の促進のための援助に至るまで、広範囲にわたっている。

○ 技術支援

健康福祉事務所や市町及び保健・医療・福祉・教育などの機関に対し、専門的立場から、指導や援助を行っている。

○ 教育研修

健康福祉事務所、市町、社会復帰施設などで精神保健福祉に携わる職員の技術向上を図るための専門的研修を行っている。

○ 普及啓発

こころの健康に対する正しい理解をすすめるため、各種リーフレットやパネル、ビデオなどを用意するとともに、団体等が行う講演会等への協力、援助を行っている。

○ 調査・研究

地域精神保健福祉活動を効果的に実施していくために必要な調査研究を行っている。また、各種情報を収集整備し、提供している。

○ 相談

心の健康相談、精神科医療に関する相談、社会復帰相談のうち、ひきこもり、薬物、自殺等の複雑困難なものに対する相談を行っている。また、専用電話での相談も行っている。

○ 集団指導

相談を受けた中で、グループでの交流が必要な人に対し、集団指導を実施している。現在実施しているのは、家族教室（薬物・ひきこもり・家庭内暴力）、当事者グループ（ひきこもり）である。

○ 組織育成

精神保健福祉に関する団体や組織の活動に援助を行っている。

○ 精神医療審査会

精神科病院における処遇等についての審査に関する事務を行っている。

○ 自立支援医療（精神通院医療）と精神障害者保健福祉手帳

障害者総合支援法に基づく自立支援医療（精神通院医療）と精神保健福祉法に基づく精神障害者保健福祉手帳の判定と交付事務を行っている。

2 沿 革

- 昭和 37 年 4 月 1 日 兵庫県衛生部予防課内に県立中央精神衛生相談所を設置した。
- 昭和 37 年 4 月 17 日 精神衛生法施行規則第 3 条の規定に基づき厚生大臣に相談所設置の申請をした。
- 昭和 37 年 5 月 4 日 精神衛生法第 7 条に基づく厚生大臣の承認を受けた。
- 昭和 37 年 9 月 14 日 神戸医科大学付属病院西寮（精神神経科医局）内の 2 室を利用し、事業を開始した。
- 昭和 41 年 4 月 1 日 精神衛生法改正に伴い、県立精神衛生相談所を廃止し、県立精神衛生センターが設置された。
- 昭和 43 年 4 月 20 日 兵庫県保健衛生センターの竣工に伴い、神戸市兵庫区荒田町 2 丁目に移転した。
- 昭和 43 年 4 月 20 日 診療所開設許可を受けた。
- 昭和 44 年 4 月 1 日 次長の職を新設し、指導課及び相談課を設置した。
- 昭和 59 年 4 月 1 日 課制を廃止するとともに、精神衛生専門員の職を設置した。
- 昭和 63 年 7 月 1 日 精神衛生法改正に伴い、県立精神衛生センターを県立精神保健センターに改称するとともに、精神衛生専門員を精神保健専門員に改称した。
- 平成 3 年 4 月 1 日 主任精神保健専門員の職を設置した。
- 平成 7 年 7 月 18 日 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の改正に伴い、県立精神保健センターを県立精神保健福祉センターに改称するとともに、主任精神保健専門員を主任精神保健福祉専門員に、精神保健専門員を精神保健福祉専門員にそれぞれ改称した。
- 平成 14 年 4 月 1 日 精神保健福祉法の改正に伴い、①手帳の等級及び公費負担の判定、②手帳の交付、③通院医療費公費負担事務、④精神医療審査会の運営事務について本庁から委譲。
- 平成 16 年 4 月 1 日 神戸市兵庫区荒田町 2 丁目から神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目へ移転した。出納員を設置し、主幹（総務担当）の職を設置した。
- 平成 18 年 4 月 1 日 障害者自立支援法の施行に伴い、医療事務を改正した。
- 平成 19 年 4 月 1 日 自殺予防対策担当として次長職を設置した。
- 平成 22 年 4 月 1 日 医師職の主幹（医療担当）を設置した。
- 平成 23 年 4 月 1 日 医師職の医療参事、主幹（精神保健福祉担当）を設置した。
- 平成 24 年 4 月 1 日 行政組織規則の一部改正により、兵庫県立精神保健福祉センターを兵庫県精神保健福祉センターに改称した。
- 平成 26 年 4 月 1 日 主幹の職を廃し、所長補佐の職を設置した。
- 平成 27 年 4 月 1 日 障害福祉専門員の職を設置した。
- 平成 30 年 1 月 1 日 ひょうご依存症対策センターを開設した。

3 施 設

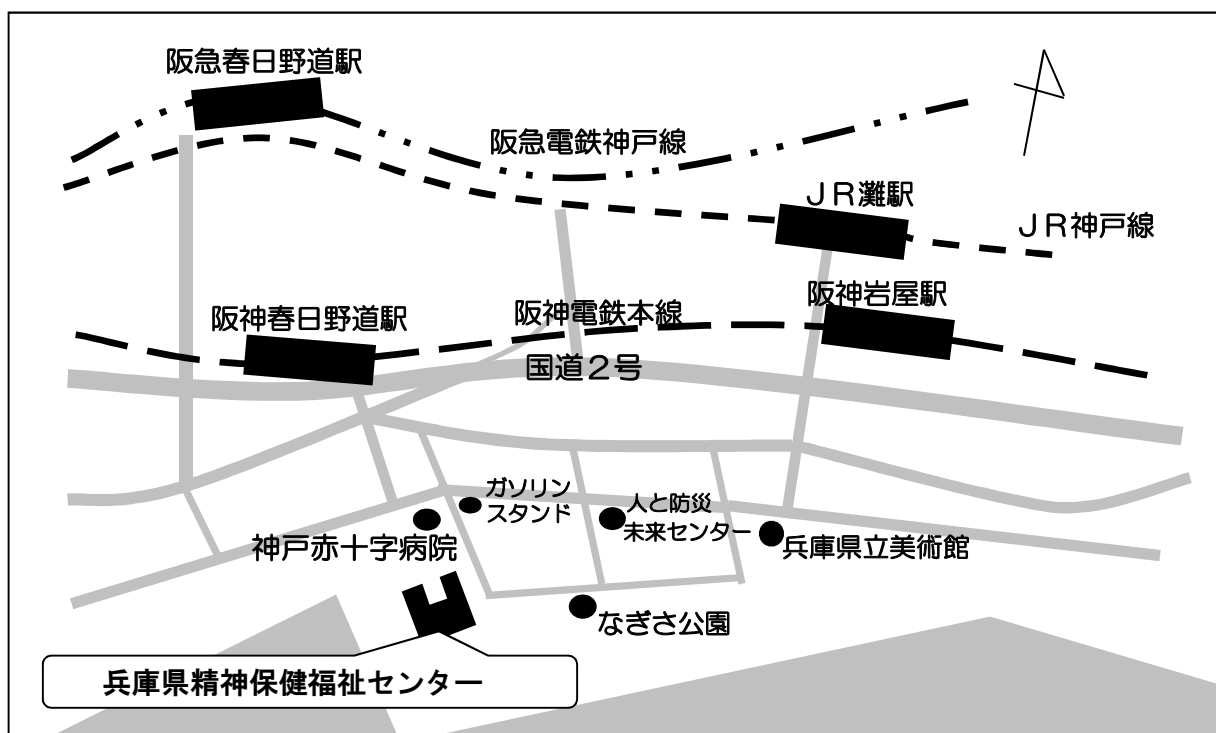
(1) 所在地

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-2

電 話 (078) 252-4980

F A X (078) 252-4981

兵庫県精神保健福祉センター附近図



《最寄りの交通機関》

- ◆ J R 灘駅から南西へ徒歩 25 分
- ◆ 阪急電車 春日野道駅から南へ徒歩 15 分
- ◆ 阪神電車 春日野道駅から南へ徒歩 8 分

《来所される場合の目印等》

- ◆ 目標となる場所：HAT 神戸 神戸赤十字病院の南（海）側
- ◆ 兵庫県こころのケアセンターと共用
- ◆ 3階建のビル（外壁ベージュ色）の2階に受付

(2) 施設の概要

敷地面積 18,700.00 m²

建 物 精神保健福祉センターと兵庫県こころのケアセンターとの共用施設

鉄 骨 造 地上3階

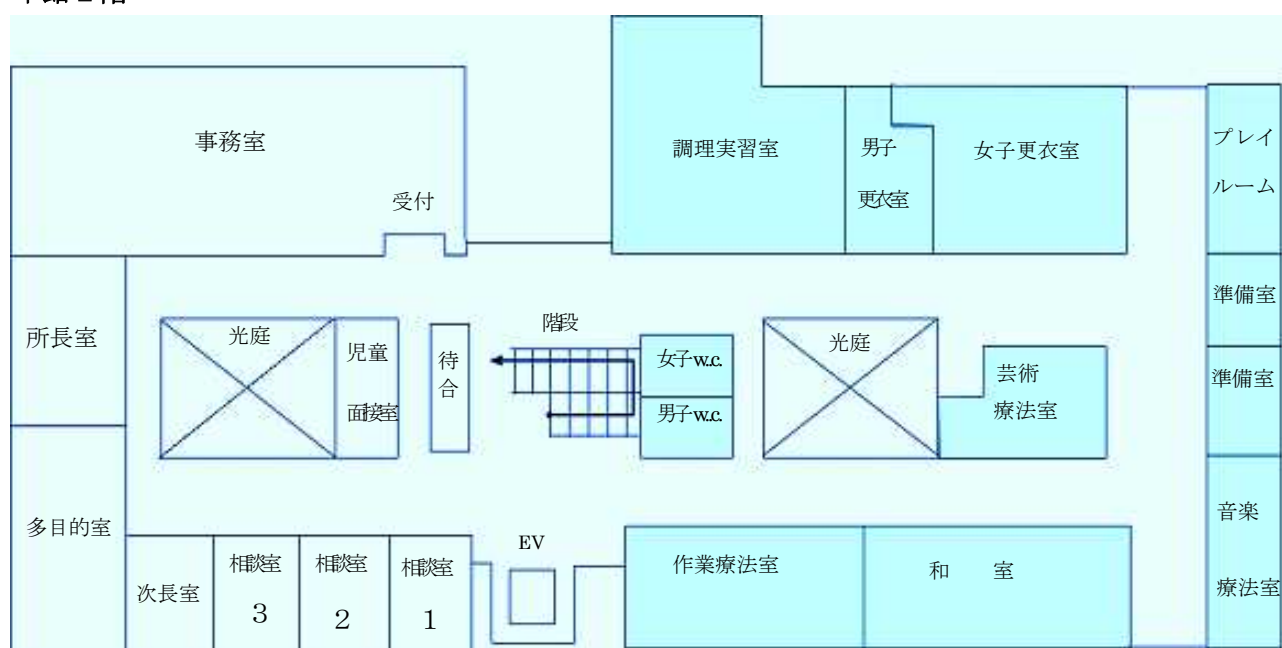
延床面積 5,487.00 m²

うち精神保健福祉センター専用部分

2階 393.48 m²

精神保健福祉センター館内配置図

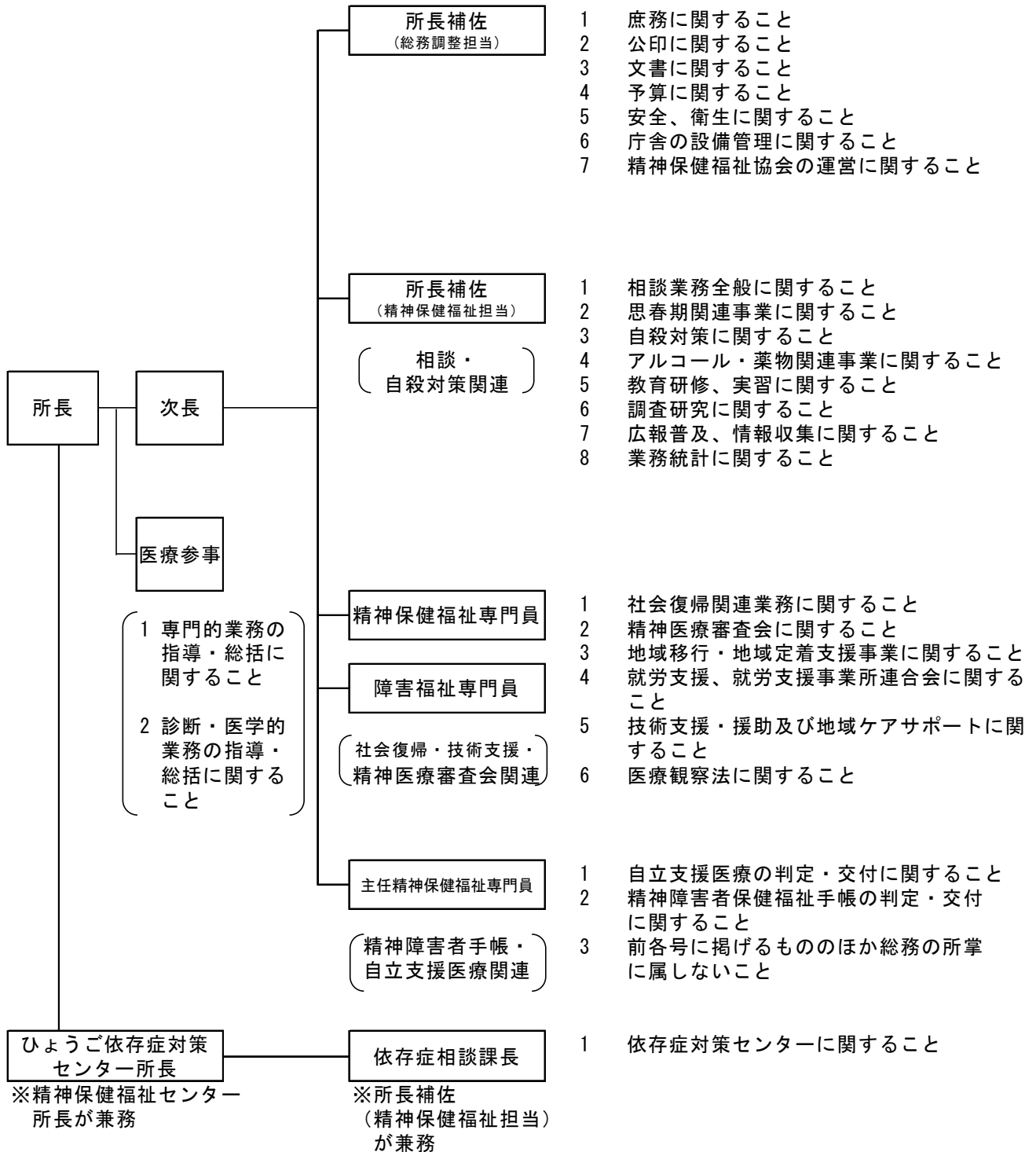
本館2階



兵庫県こころのケアセンター

4 組 織

平成 30 年 4 月 1 日現在



5 職 員

(平成 30 年 4 月 1 日現在 単位：人)

職 種 職 名		医 師	精神保健 福 祉 士	臨床心理 技 術 者	保 健 師	事 務 職	計
		常 勤 職 員	所 長	1			
医 療 参 事	1						1
所 長 補 佐					1	1	2
主任精神保健 福祉専門員					1		1
精神保健福 祉専門員			1				1
課 長 補 佐					1	1	2
主 査			1	2			3
主 任			1		1		2
職 員			2	1			3
計	2		5	3	4	2	16
非 常 勤 職 員 等	次 長					1	1
	医 療 参 事	1 注1					1
	障 害 福 祉 専 門 員		1				1
	医 務 嘱 託	3					3
	こころの健康電話 相談事務嘱託	1	2 注2	2			5
	精神保健福祉相 談事務嘱託		2				2
	自立支援等判定 調整事務嘱託		1				1
	自殺対策調整員		1				1
	県政推進 事務嘱託					3	3
	計	5	7	2		4	18
合 計		7	12	5	4	6	34

(注1) 伊丹健康福祉事務所長が兼務

(注2) こころの健康電話相談事務嘱託のうち1名は社会福祉士

II 精神保健福祉センター事業

1 技術支援

健康福祉事務所や市町等を中心に、教育・福祉・労働等の各機関への支援を実施し、地域の精神保健福祉の向上に努めている。

(1) 技術指導・技術援助

技術支援の内容については、年度始めに各健康福祉事務所・保健所に要望を聴取し調整の上、実施している。職員は地区担当制とし、状況に応じて、事業担当者と共に支援を行うようにしている。平成 28 年度は自殺既遂者や処遇困難ケースの事例検討、各種連絡会議、業務担当者会議などでの助言を行った。また、個別相談等の直接的な援助も行った。(表 1-1~4)

(2) 地域ケアサポート

健康福祉事務所や東日本大震災、また平成 28 年 4 月に発生した熊本地震の被災地を対象に、災害・事故時の緊急・集中的なメンタルケアに関する支援や緊急複雑困難事例への対応、新たな事業への支援としては「精神障害者継続支援チーム」事業への支援を実施した。

支援は地区担当者を中心に多職種で対応した。(表 1-5)

(3) その他

地域精神保健福祉活動の推進のため各種会議、委員会等に出席した。(表 1-6)

表 1-1 技術指導 (対象機関別延回数)

(単位：回)

健康福祉事務所	市町関係	福祉関係	医療関係	教育関係	労働関係	司法関係	各種精神保健福祉団体	その他	合計
87	36	17	27	7	0	37	6	67	284

表 1-2 技術指導 (対象者所属機関別延人員)

(単位：人)

健康福祉事務所			市町関係	福祉関係	医療関係	教育関係	労働関係	司法関係	各種精神保健福祉団体	その他	合計
保健師	その他	小計									
287	60	347	339	214	247	36	35	210	92	479	1,999

表 1-3 技術援助（対象機関別延回数）

（単位：回）

健康福祉事務所	市町関係	福祉関係	医療関係	教育関係	司法関係	各精神保健福祉団体	その他	合計
13	3	0	4	0	8	0	10	38

表 1-4 技術援助（対象者支援機関別延人員）

（単位：人）

健康福祉事務所			市町関係	福祉関係	医療関係	教育関係	司法関係	各精神保健福祉団体	その他	合計
個人面接	その他	小計								
1	1	2	8	84	60	0	9	0	37	200

表 1-5 地域ケアサポート事業活動内容 <技術指導（対象機関別延回数）の再掲>

内 容	地域数	延活動回数
災害・事故などによる緊急・集中的なメンタルケアに関する支援	6	22回
緊急及び複雑困難事例への支援	5	8回
新たな事業への支援	5	5回

表 1-6 他機関の委員会等への就任状況

委員会・会議の名称	就任名称	実施主体
兵庫県職員健康管理審査会（精神科部会）	委員	職員課
兵庫県教職員健康管理審査会	委員	教育委員会事務局教職員課
兵庫県立大学健康管理審査会（精神科部会）	委員	兵庫県立大学
兵庫県警察職員健康管理審査会	委員	兵庫県警察本部警務部厚生課
兵庫県社会福祉協議会職員健康管理審査会	委員	兵庫県社会福祉協議会
職員相談員	職員相談員	職員課
兵庫県精神科救急医療体制連絡調整委員会	委員	障害福祉課
兵庫県犯罪被害者支援連絡協議会 兵庫県犯罪被害者支援庁内連絡会議	会 員 構 成 員	兵庫県警察本部警務部警務課 地域安全課
ひょうごDV防止ネットワーク会議	委員	女性家庭センター
児童虐待防止対策推進協議会	委員	児童課
ひょうごユースケアネット推進会議	委員	青少年課
ニート就労連携支援会議	委員	しごと支援課
ひょうご発達障害者支援センター連絡協議会	委員	ひょうご発達障害者支援センター
日常生活自立支援事業契約締結審査会	委員	兵庫県社会福祉協議会
医療観察法に基づく地域処遇にかかる 兵庫県連絡協議会	構 成 員	神戸保護観察所
精神障害者社会適応訓練事業運営会議	議長・委員	障害者支援課
兵庫県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議 （県レベル、神戸・三田地域）	構 成 員	総合リハビリテーション センター 能力開発課
精神障害者雇用支援事業連絡協議会	委員	兵庫障害者職業センター
薬物乱用対策推進本部幹事会	幹 事	薬務課
兵庫県自殺対策連絡協議会	構 成 員	いのち対策室
兵庫県自殺対策推進本部幹事会	構 成 員	いのち対策室
西宮市権利携獲システム推進委員会	委員	西宮市
兵庫県立健康環境科学研究センター倫理審査委員会	委員	健康環境科学研究センター
措置入院者退院支援委員会	委員	障害福祉課

2 教育研修（精神保健福祉センターが主催で、精神保健福祉に携わる職員への専門的研修）

県内の精神保健福祉業務に従事する職員等の資質の向上を図るため、近年の精神保健福祉業務の動向をふまえた各種研修を開催している。

（1）研修会

県内の精神保健福祉業務に従事する職員等を対象とした各種研修を実施した。

（表 2-1）

（2）実習の受け入れ

大学や専門学校において社会福祉学、看護学、心理学などの科目を履修している学生の実習を受け入れた。また、関係機関の職員等を研修生として受け入れ、要望に応じて施設見学や情報提供、講話等を行った。（表 2-2）

表 2-1 平成 29 年度 教育研修事業

	研修日時・研修名	日程	参加者数	対象	内容
自殺対策関連	相談機関向け研修 (こころのケアセンター中研修室)	6月24日	17	神戸いのちの電話、はりまいのちの電話、こころの健康電話相談の電話相談員	講義： 「相談のキホンと相談員のメンタルケアについて」 グループディスカッション： 「相談員のメンタルケアについて」 講師：神戸臨床心理の会 世話人 本多 雅子
	自殺未遂者ケア研修 (こころのケアセンター大研修室)	9月2日	123	医療機関従事者、消防・救急隊員、警察、健康福祉事務所及び市町自殺対策担当者、ゲートキーパー、民生委員	講演： 「地域で取り組む自殺未遂者ケアと遺族支援について」 講師：岩手医科大学医学部神経精神科学講座 教授 大塚 耕太郎
	自殺対策企画研修 (兵庫県中央労働センター大ホール)	12月26日	69	健康福祉事務所及び市町の自殺対策関連事業担当職員	報告： 「兵庫県の自殺の現状及び兵庫県自殺対策計画について」 講師：兵庫県障害福祉課いのち対策室 主査 中垣 倫子 報告： 「地域自殺対策推進センター研修会」 講師：兵庫県精神保健福祉センター 職員 太田 翔吾 事例提供： 「自殺に対する地域診断及び自殺対策計画策定に向けた取組について」 講師：尼崎市保健所疾病対策担当 係長 藤塚 奈穂子 丹波健康福祉事務所地域保健課 課長補佐 川崎 由岐子 講義： 「自殺の地域診断と対策～計画策定及び評価について～」 グループワーク： 「自殺対策計画と評価について」 講師：立命館大学総合心理学部 教授 川野 健治

	研修日時・研修名	日程	参加者数	対象	内容
精神障害関連	精神障害者継続支援連絡会 (こころのケアセンター中研修室)	2月1日	39	健康福祉事務所、中核市保健所、神戸市保健センター、神戸市こころの健康センター、県障害福祉課職員	報告： ① 「兵庫県継続支援体制の構築事業及び今後の法改正について」 県障害福祉課 長岡 美佐 ② 「兵庫県継続支援チーム実施状況報告」 精神保健福祉センター 宮脇 直子 話題提供： 「継続支援チーム活動から見えること」 ～医療との連携、他圏域との連携、地域支援体制の構築～ 話題提供：伊丹健康福祉事務所 加古川健康福祉事務所 東加古川病院 意見交換： 助言：ひょうごこころの医療センター 田中 究
思春期関連	思春期関連問題研究会（第1回） 共催： 兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課 (こころのケアセンター大研修室)	9月5日	78	児童思春期問題などの精神保健福祉相談業務に携わる支援者	講演： 「ひきこもりの理解と支援」 講師：兵庫県立大学看護学部 准教授 船越 明子
	思春期関連問題研究会（第2回） 共催： 兵庫県企画県民部女性青少年局青少年課 (兵庫県私学会館)	1月23日	102	児童思春期問題などの精神保健福祉相談業務に携わる支援者	講演： 「ひきこもり状態にある本人への支援」 グループワーク： 「事例を通して、ひきこもり状態にある本人への支援を学ぶ」 講師：兵庫県立大学看護学部 准教授 船越 明子
依存症関連	依存症関連問題研究会 (兵庫県精神保健福祉大会) 共催： 兵庫県精神保健福祉協会 (こころのケアセンター大研修室)	3月3日	110	依存症関連問題に携わる支援者、家族等	講演： 「依存症からの回復～アルコール・薬物・ギャンブルの依存について」 講師：北星学園大学社会福祉学部 教授 田辺 等

	研修日時・研修名	日程	参加者数	対象	内容
地域移行・地域定着	精神障害者の地域移行関係職員研修 (東加古川病院)	9月27日	57	病院職員、サービス事業所職員、当事者、管内市町職員、健康福祉事務所職員等	<p>体験発表： 「長期入院を経て退院となった当事者及び支援者からの実践報告」 ①当事者 ②主治医 ③看護職 ④相談員 ⑤OT ⑥事業所支援員 ⑦デイケア職員</p> <p>グループワーク： テーマ「退院に向けて自分は何ができるか」 助言：地域生活支援センターあいあむセンター長 溝口 直哉 (東播磨圏域コーディネーター)</p>
	精神障害者の地域移行関係職員研修 (播磨サナトリウム)	10月20日	47	病院職員、サービス事業所職員、当事者、管内市町職員、健康福祉事務所職員等	<p>講演： 「精神保健福祉における地域移行・地域定着の概要について」 講師：県障害福祉課 永田 健二</p> <p>講演： 「精神障害者を支える地域社会資源について」 講師：地域生活支援センターあいあむセンター長 溝口 直哉 (東播磨圏域コーディネーター)</p>
就労支援	就労支援研修会 (兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会講演会) (こころのケアセンター大研修室)	6月28日	105	社適協力事業所、健康福祉事務所、市保健所、就労・生活支援センター、社協、医療機関、当事者、家族等	<p>講演： 「働き続ける人材とは～就労の定着のために求められること 企業の立場から、当事者の立場から、支援者の立場から～」 講師：兵庫障害者職業センター 新谷 正樹</p>
	就労支援研修会 (兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会20周年記念大会) (兵庫県民会館)	11月12日	242	社適協力事業所、健康福祉事務所、市保健所、就労・生活支援センター、社協、医療機関、当事者、家族等	<p>講演： 「社会復帰から社会進出へ～浦河べてるの家の歩みから～」 講師：(社福)浦河べてるの家 理事 向谷地生良 ソーシャルワーカー 伊藤 知之 ソーシャルワーカー 東 大地</p> <p>座談会： 「遠く(TALK?!)北海道と兵庫をつなぐ～でっかく夢を語ってみよう、自分らしく豊かに生きる～」 座長： (社福)浦河べてるの家 理事 向谷地生良</p> <p>登壇者： (社福)浦河べてるの家 ソーシャルワーカー 伊藤 知之 ソーシャルワーカー 東 大地 淡路障害者生活支援センター 安井 幹人 障害者相談支援センター輪っふる 谷 加代子 就B事業所クリエイティブグループ 安田真衣子 就労支援事業所連合会 野村 浩之</p>

	研修日時・研修名	日程	参加者数	対象	内容
精神保健福祉	自殺未遂者ケア研修 (再掲) (こころのケアセンター大研修室)	9月2日	123	医療機関従事者、消防・救急隊員、警察、健康福祉事務所及び市町自殺対策担当者、ゲートキーパー、民生委員	講演： 「地域で取り組む自殺未遂者ケアと遺族支援について」 講師：岩手医科大学医学部神経精神科学講座 教授 大塚 耕太郎
	兵庫県精神保健福祉大会（再掲） 共催： 兵庫県精神保健福祉協会 (こころのケアセンター大研修室)	3月3日	110	依存症関連問題に携わる支援者、家族等	講演： 「依存症からの回復～アルコール・薬物・ギャンブルの依存について」 講師：北星学園大学社会福祉学部 教授 田辺 等

表 2-2 学生実習及び関係機関職員研修

対象	実施回数	実人員	延人数
学 生	18	70	88
関係機関職員	0	0	0

3 普及啓発

県民の精神保健福祉に関する知識の普及を図るため、講演会等の開催、他機関の主催する講演会等への講師派遣、各種印刷物の発行等を行った。(表 3-1)

(1) 講習会・講演会

精神疾患の理解、依存症、ひきこもり、自殺対策、災害後のこころのケア等について講演依頼があり、講師を派遣したり、一般県民や地域の支援者、職場の管理者等に対するこころの健康に関する講演会等を行った。(表 3-2、表 3-3)

(2) 印刷物の発行

精神保健福祉センター年報平成 27 年度版を作成した。(表 3-4)

(3) ビデオ・パネル貸し出し

県内の関係機関に対し、精神保健福祉に関する VHS・DVD とアルコール関連問題に関する知識普及のためのパネルの貸し出しを行っている。

(ビデオ目録、パネル目録および貸し出し方法については巻末資料参照)

(4) ホームページの作成

当センターの業務紹介、関係機関や社会資源及び自殺対策に関する情報などを一般県民対象に発信するため、ホームページを作成し、随時更新した。

- ・兵庫県精神保健福祉センターホームページアドレス

http://web.pref.hyogo.jp/hw35/hw35_000000005.html

- ・兵庫県自殺対策ホームページアドレス

http://web.pref.hyogo.jp/hw35/hw35_000000008.html

表 3-1 普及啓発

講演会		講習会		その他		計	
回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
4	562	17	1,169	124	2,263	145	3,994

表 3-2 講習の内容（他機関が主催で、精神保健福祉に携わる職員への専門的な講習）

講習のテーマ		名称等	対象者	講師
センター業務関連	精神保健福祉センター業務説明	精神保健福祉業務担当者会議	各健康福祉事務所、市保健所、県障害福祉課、こころのケアセンター	PSW CP
	兵庫県精神保健福祉センターについて（3回）	神戸保護観察所引受人講習会	引受人、保護司	保健師 PSW CP
	こころのケア研修等の実施状況について	こころのケア研修連絡調整会議	消防学校、こども家庭センター、社会福祉協議会、心の教育総合センター、こころのケアセンター	CP
精神保健関連	精神保健福祉に関する法令研修について	精神保健に関する法令研修	明石健康福祉事務所職員、明石市職員	PSW
	職場のメンタルヘルスと所属長の役割	所属長に対するメンタルヘルス研修	新規8級職員	医師
	精神障害者の人権と法	精神保健指定医研修会	資格更新の指定医	医師
災害関連	災害後の中長期の問題	災害後の心のケア従事職員研修会	仙台市職員	PSW
	被災者のこころの理解とケアについて	災害支援ナースブラッシュアップ研修	災害支援看護師	PSW
自殺対策関連	なぜ自殺対策が必要なのか	佐用町自殺予防対策連絡会議	佐用町職員、実習生等	PSW
	自殺既遂事例検討会	佐用町自殺予防対策連絡会議②	佐用町職員	PSW CP
	自殺対策の基本的な知識とゲートキーパーとしての対応について	西宮市自殺対策管内連絡会議	西宮市職員、警察、消防等	PSW
	地域でできる自殺対策	篠山市民生児童委員研修会	民生児童委員	医師
	自殺未遂者支援の必要性について	自殺未遂者支援研修会	龍野健康福祉事務所、管内市町職員、相談支援事業所	PSW
	市町自殺対策計画の手引きについて	自殺対策連絡会議	赤穂管内の市町職員	PSW
	危険因子、保護因子、未遂事例への対応	加古川健康福祉事務所自殺既遂事例検討会	加古川健康福祉事務所及び管内市町、加古川市民病院職員	PSW
	自殺未遂者支援、関わりについて	上郡町、赤穂健康福祉事務所自殺対策ケース検討会議	赤穂健康福祉事務所及び上郡職員	PSW
実習関連	行政の精神保健福祉士の実践	精神保健福祉特別講義	神戸女子大学社会福祉学科3年生	PSW

(注) C P : 臨床心理技術者
P S W : 精神保健福祉士

表 3-3 講演の内容（精神保健福祉センターが主催又は共催で県民を対象にした講演会）

講演のテーマ	名称等	対象者
精神障害者の就労支援	職親会総会・講演会	精神障害者の就労に関心のある方
自殺未遂者・遺族支援	自殺未遂者ケア研修 （こころの健康づくり講演会）	自殺対策支援に関心のある方
精神障害者の就労支援	精神障害者就労支援事業 連合会 20 周年記念大会	精神障害者の就労に関心のある方
依存症からの回復 ～アルコール・薬物・ギャンブルの 依存症について～	依存症関連問題研修会 （精神保健福祉大会）	依存症問題に関心のある方

表 3-4 印刷物の発行

印刷物名	発行年月
精神保健福祉センター年報 平成 28 年度	平成 29 年 9 月

4 調査・研究

下記のとおり調査・研究を行った。

- (1) 「精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)事務処理マニュアル」の改訂及び「Q&A」の改訂(平成29年11月)

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の申請から交付までの事務処理を適正かつ迅速に行うため、「事務処理マニュアル」及び市町等からの質問等を取りまとめた「Q&A」を改訂し、県下の健康福祉事務所、指定市及び市町に配布を行った。

これにより、事務処理方法の見直しに関する市町関係者の理解が進み、進達事務までの事務の正確性が増し、事務の質の向上が図られた。

- (2) 「精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)事務に関する作業手順書」の作成(平成30年3月)

精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院医療)の事務処理の作業手順を整理し、作業手順書を作成した。

これにより、全作業を見直すことで事務の効率化が図られるとともに、職員が作業の全体像を知ること、担当者不在時の対応が図りやすくなるなど業務の円滑化が図られた。

- (3) リーフレット「Repeat(リピート)～アルコール依存症からの回復～」の作成

アルコール依存症者のためのリーフレットを「アルコール依存症に関する知識編」「回復のための実践編」「家族のための知識・実践編」の構成で3,000部を作成し、医療機関や健康福祉事務所等の相談機関に配布するとともに、当センターに来所相談する当事者や家族がアルコール依存症についての正しい知識や生活方法を学習する媒体として活用することができる。

これにより、アルコール依存症はだれもが罹患する可能性がある病気であり、回復可能であること等の知識を普及し、偏見や誤解をなくす周知として活用することができる。

- (4) リーフレット「家庭内暴力を理解するために」の作成

子どもからの家庭内暴力の対応についてのリーフレットを家族向けに500部を作成し、暴力に対する正しい知識と家族がとるべき対応方法を説明する資料として活用する。

内容として、客観的に暴力を捉え、暴力の性質やエスカレートするメカニズムを解説し、家族が当事者に対してとるべき対応として家族の安全確保、暴力を拒絶することや、第三者に相談することを挙げ、家族自身の心の健康の回復が必須であることを説明している。

これにより、子どもから親への暴力の長期化や深刻化を防ぐこと及び被害者である家族自身が健康を取り戻すことをねらいとして、正しい知識を得て、暴力をふるう子どもに対する毅然とした対応をとることができる手助けとすることができる。

(5) 自閉スペクトラム症の精神病理学的特徴についての研究

自閉スペクトラム症 (ASD) は、児童精神医学領域ではよく知られていたものの、成人症例の存在が日本の精神医療一般に周知されはじめたのはこの 10 数年のことで、歴史はまだ浅い。そのため現在でも、統合失調症、うつ病、パーソナリティ障害等と診断されて背景にある発達の問題が看過され、適切な支援を受けていない ASD 症例は日常的に見受けられる。本研究は、精神保健福祉センターでの相談業務等に基づいて ASD の精神病理学的特徴を精査し、他疾患との鑑別や合併について考察した。研究結果は、ワークショップでの発表（平成 30 年 10 月頃出版予定）や論文（精神医学の学会誌に 2 本、精神医学の商業誌に 2 本）としてまとめられ、精神医療関係者、一般読者に広く公表された。

5 精神保健福祉相談

(1) 来所相談

こころの悩みや精神的な病気、社会復帰などに関する精神保健福祉相談は、健康福祉事務所（保健所）や市町担当窓口で受けているが、センターでは、より複雑困難なものや、思春期、薬物関連問題等の特定相談を含めた精神保健福祉全般の相談を実施している。

① 初回相談（事前の電話による予約制）

相談日：毎週火曜日～土曜日

午前9時から12時（祝日及び年末年始を除く）

※土曜日がハッピーマンデー（成人の日、海の日、敬老の日及び体育の日）又は振替休日（祝日が日曜日にあたる時のその翌日）の場合、その前の週の土曜日は休館。

担当者：精神保健福祉士、臨床心理技術者、保健師などの精神保健福祉相談員

② 継続相談（初回相談を受けたもののうち所内事例検討会議で継続相談が適当とされたもの）

処遇方針：所内事例検討会議で決定する。

相談日：随時

担当者：原則初回相談を受けた精神保健福祉相談員

その他：必要に応じて医師による相談指導等を行う。

診療機能をもたないので、その必要が生じたときには病院や診療所を紹介する。

表 4-1 新規来所者経路の内訳

機 関	件数	%
インターネット	24	51.1
医 療 機 関	3	6.4
市 町	5	10.6
知 人	1	2.1
マスメディア	4	8.5
健康福祉事務所	4	8.5
学 校	0	0.0
国 ・ 県	1	2.1
そ の 他	5	10.6
不 明	0	0.0
合 計	47	100.0

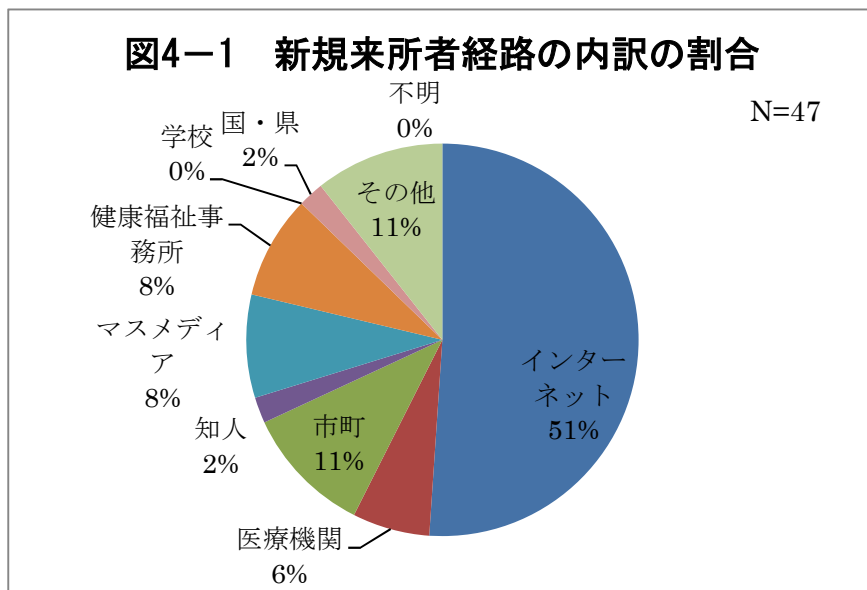


表 4-2 新規来所者の内訳

来所者	件数	%
本 人	10	21.3
家 族	37	78.7
その他	0	0.0
合 計	47	100.0

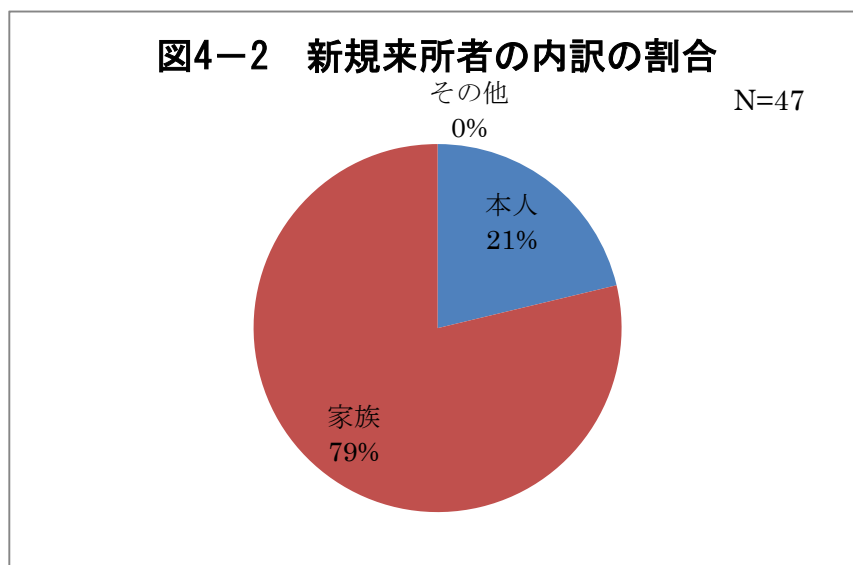


表 4-3 新規来談者相談主訴・年齢及び男女別の内訳

相談主訴	当事者の年齢および性別												計	合計					
	10～19		20～29		30～39		40～49		50～59		60～69				70～		不明		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男		女	男	女	男	女
A 精神医療・精神障害				1				1									0	2	2
B 嗜癖行動の問題		4	5		5	1	4		1	1				1			15	7	22
C 思春期問題	1	2	4	2	3												8	4	12
D 家族関係の問題				2	2	1	1										3	3	6
E 対人関係の問題							1										1	0	1
F こころの健康の問題	1			1													1	1	2
G 福祉・社会復帰等			1	1													1	1	2
H 発達障害																	0	0	0
I その他																	0	0	0
計（男女別）	2	6	10	7	10	2	6	1	1	1	0	0	0	1	0	0	29	18	
合計	8		17		12		7		2		0		1		0		47		

表 4-4 新規来談者処遇の内訳

区 別	継 続	終 了	紹 介	合 計
件 数	32	14	1	47

表 4-5 相談の内容

	新規相談		継続相談		相談実件数		相談延べ件数	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
一般精神	4	8.5	36	6.2	12	9.2	40	6.4
老人精神	0	0.0	1	0.2	1	0.8	1	0.2
社会復帰	4	8.5	127	21.9	18	13.7	131	20.9
アルコール	2	4.3	1	0.2	2	1.5	3	0.5
薬物	12	25.5	58	10.0	21	16.0	70	11.1
ギャンブル	6	12.8	14	2.4	7	5.3	20	3.2
思春期	17	36.2	318	54.7	64	48.9	335	53.3
心の健康	1	2.1	8	1.4	4	3.1	9	1.4
うつ、うつ状態	1	2.1	18	3.1	2	1.5	19	3.0
摂食障害	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
てんかん	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	47	100.0	581	100.0	131	100.0	628	100.0

図4-5a 相談実件数の内容の割合

N=131

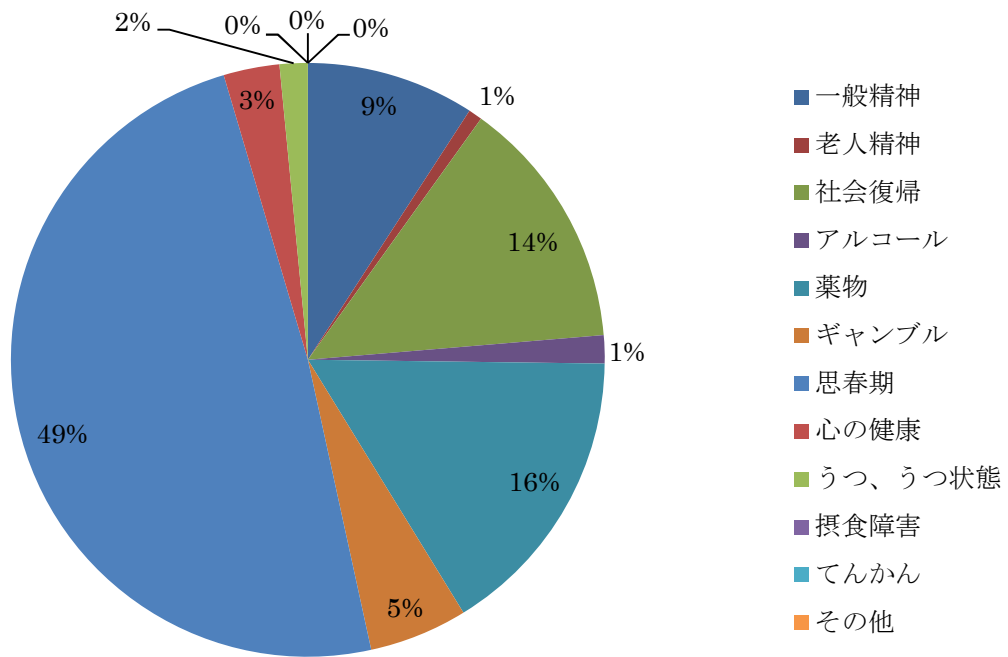
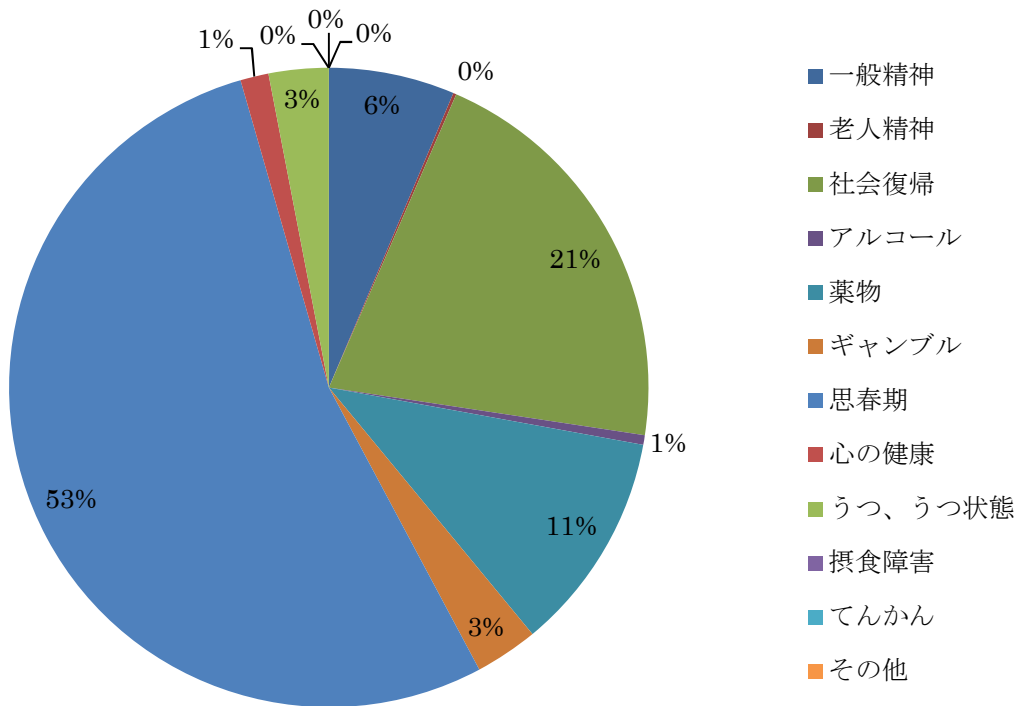


図4-5b 相談延べ件数の内容の割合

N=628



(2) 電話相談

① こころの健康電話相談

電話受付曜日：火曜日～土曜日（祝日及び年末年始を除く）

受付時間：午前9時30分～11時30分、午後1時00分～3時30分

※ 土曜日がハッピーマンデー（成人の日、海の日、敬老の日及び体育の日）又は振替休日（祝日が日曜日にあたる時のその翌日）の場合、その前の週の土曜日は休館。

専用電話番号：078-252-4987

相談担当者：心理技術者等（非常勤嘱託員）、医師（非常勤嘱託員）

ただし医師は月1回（不定期）従事する。

こころの健康相談統一ダイヤル加入 おこなおうまもろうよこころ 0570-064-556

表 4-6 相談者の内訳

相談者	件数	%
本人	2,106	86.6
家族	270	11.1
その他	55	2.3
合計	2,431	100.0

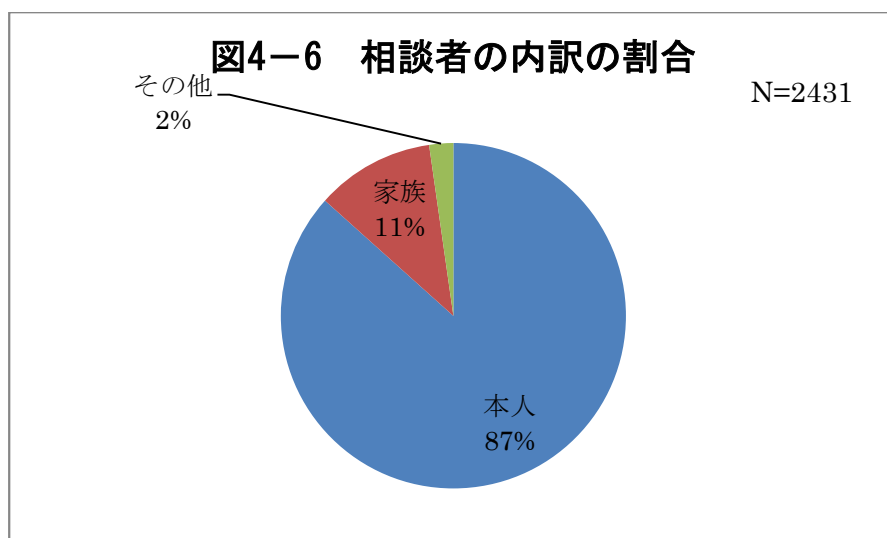


表 4-7 相談時間の内訳

相談時間 (分)	件数	%
～15	1,447	59.5
16～30	672	27.6
31～45	213	8.8
46～60	60	2.5
60～	39	1.6
合計	2,431	100.0

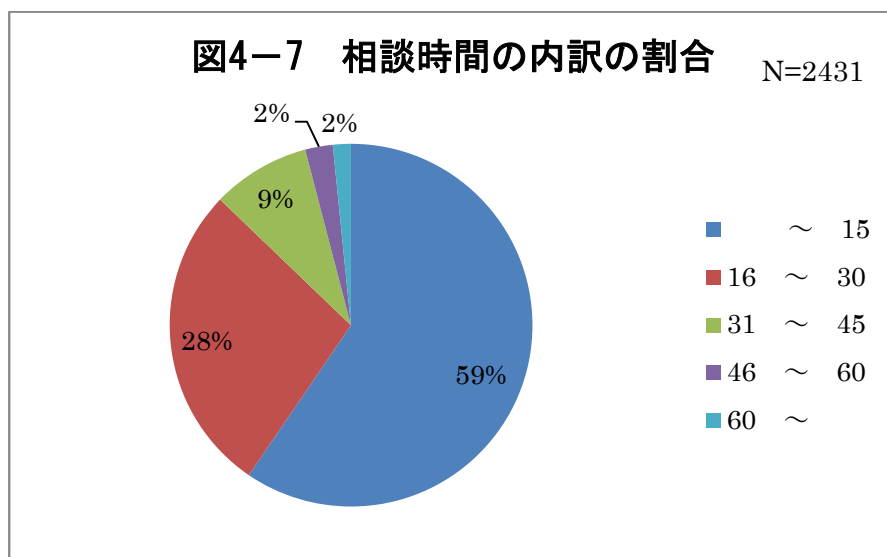


表 4-8 相談者年齢の内訳

年 齢	件 数	%
10～19 歳	6	0.2
20～29 歳	163	6.7
30～39 歳	102	4.2
40～49 歳	432	17.8
50～59 歳	424	17.4
60～69 歳	85	3.5
70 歳以上	34	1.4
不 明	1,185	48.7
合 計	2,431	100.0

図4-8 相談者年齢の内訳の割合

N=2431

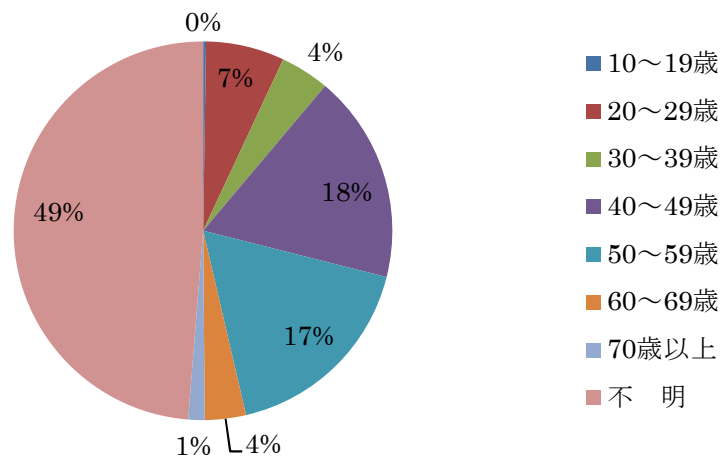
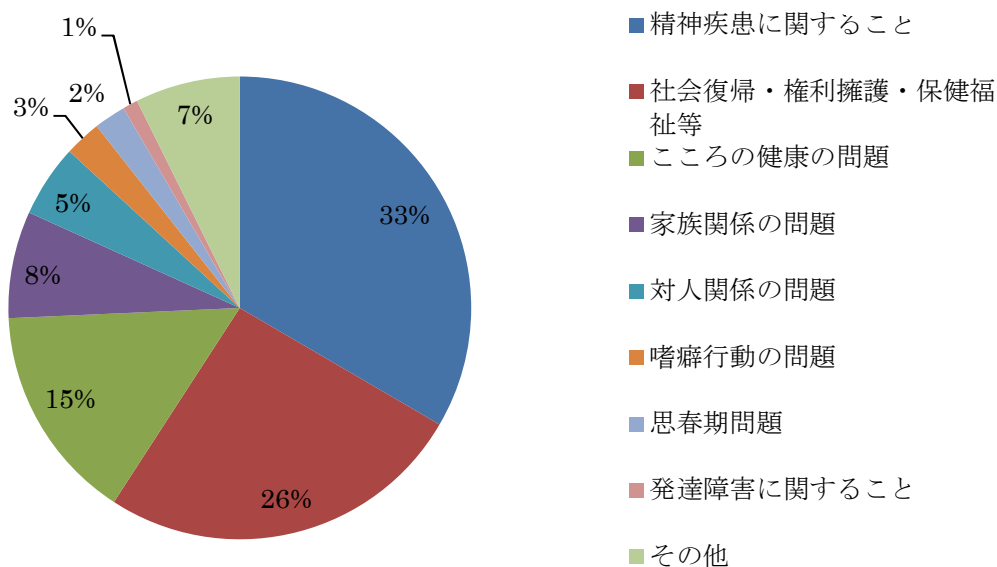


表 4-9 相談内容の内訳

相談内容	件数	%
精神疾患に関すること	812	33.4
社会復帰・権利擁護・保健福祉等	626	25.8
こころの健康の問題	368	15.1
家族関係の問題	182	7.5
対人関係の問題	123	5.1
嗜癖行動の問題	62	2.6
思春期問題	54	2.2
発達障害に関すること	26	1.1
その他	178	7.3
合 計	2,431	100.0

図4-9 相談内容の内訳の割合

N=2431



②所内電話相談

表 4-10 相談者の内訳

相談者	件数	%
本人	1,049	80.2
家族	216	16.5
その他	43	3.3
合計	1,308	100.0

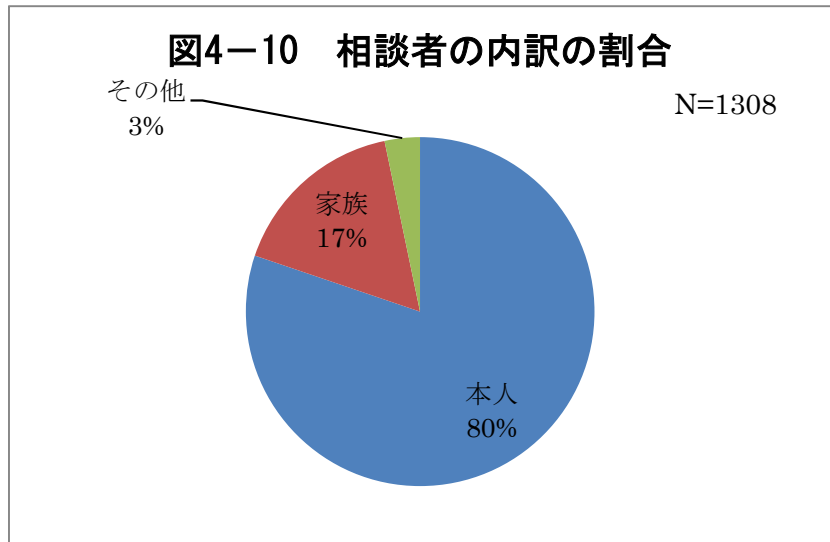


表 4-11 相談時間の内訳

相談時間 (分)	件数	%
～15	1,075	82.2
16～30	184	14.1
31～45	33	2.5
46～60	8	0.6
60～	8	0.6
合計	1,308	100.0

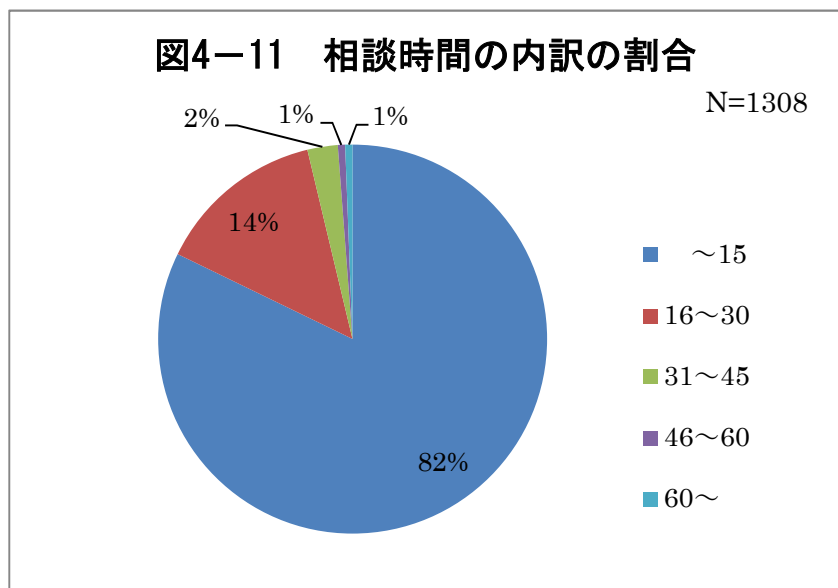


表 4-12 相談者年齢の内訳

年 齢	件数	%
10～19 歳	2	0.2
20～29 歳	59	4.5
30～39 歳	324	24.8
40～49 歳	34	2.6
50～59 歳	280	21.4
60～69 歳	18	1.4
70 歳以上	11	0.8
不 明	580	44.3
合 計	1,308	100.0

図4-12 相談者年齢の内訳の割合

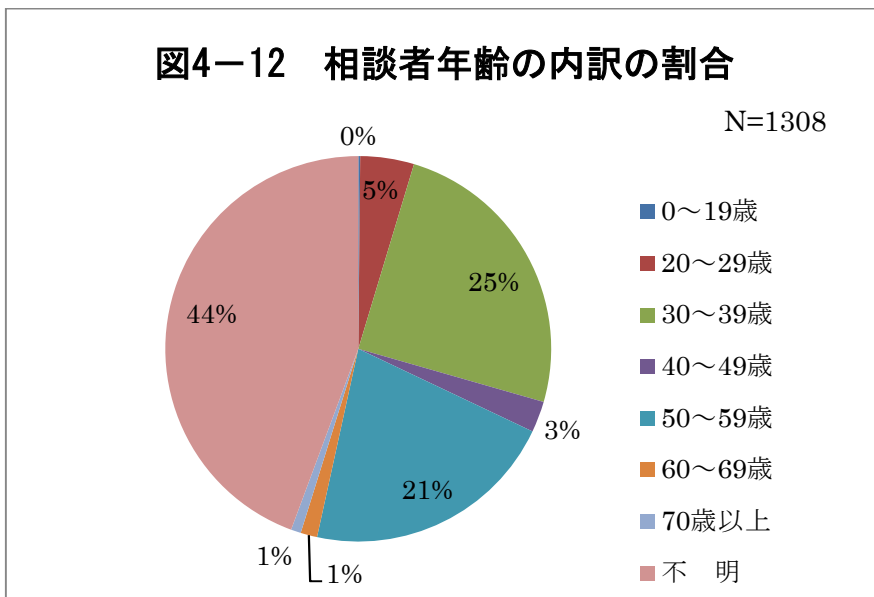
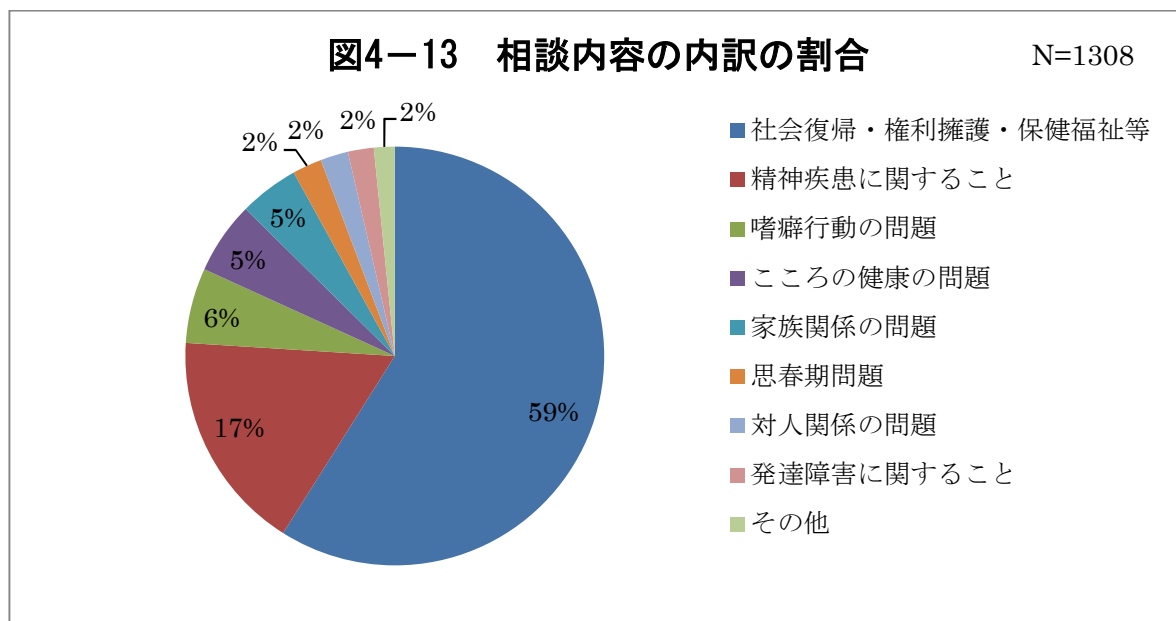


表 4-13 相談内容の内訳

相談内容	件数	%
社会復帰・権利擁護・保健福祉等	771	58.9
精神疾患に関すること	223	17.0
嗜癖行動の問題	76	5.8
こころの健康の問題	73	5.6
家族関係の問題	60	4.6
思春期問題	30	2.3
対人関係の問題	28	2.1
発達障害に関すること	26	2.0
その他	21	1.6
合 計	1,308	100.0

図4-13 相談内容の内訳の割合



(3) 集団指導事業

集団指導 (グループ)	グループ名	活動内容
	ひきこもり当事者グループ (愛称：WING)	社会的ひきこもりの当事者の居場所的な活動（レクリエーション、調理等）
	ひきこもり当事者の社会参加に向けたワークショップ (愛称：WING+F)	社会的ひきこもりの当事者がコミュニケーションスキルを学んだり、社会参加のイメージを作るための活動
	ひきこもり当事者サロン (愛称：WING+S)	就労支援機関や就労に移行した者が日ごろの息抜きやストレス解消等のために集まれる自助的な活動
	ひきこもり家族教室	対人面の悩みから社会的な参加が難しくなっている概ね思春期から30歳代の当事者のご家族（親）を対象とした教室
	家庭内暴力家族の会	親子間の家庭内暴力の問題を抱えるご家族（親）を対象とした家族の会
	薬物問題家族教室	薬物の問題（乱用・依存）を抱える当事者のご家族を対象とした教室

グループ名	平成29年度参加状況	
	回数	参加延べ人数
ひきこもり当事者グループ（WING）	21回	201名
ひきこもり当事者の社会参加に向けたワークショップ（WING+F）	12回	72名
ひきこもり当事者サロン（WING+S）	12回	29名
ひきこもり家族教室	11回	122名
家庭内暴力家族の会	12回	170名
薬物問題家族教室	11回	87名

1) ひきこもり当事者グループ (WING)

① 実施内容

目的：ひきこもりの問題を抱える当事者が、集団の中で自己表現し受容される体験をすることによって自信を得ること、集団活動の中で現れる心の問題や対人関係のパターンに気づき修正していく力を養う。

対象：当センターの精神保健福祉相談を受けた者のうち、以下の項目にあてはまる者。

- a. ひきこもりの問題を持つ当事者で、精神障害がその第1原因とは考えにくく、対人面の悩みから社会的参加が難しくなっている者
- b. 通所可能である者
- c. 思春期～30歳代の者
- d. 集団のルールを守ることのできる者

実施状況：回数・・・21回（月2回 木曜日 13:30～15:30）

内容・・・ミーティング、レクリエーション（表4-17）

当事者の参加が定着するにつれ、互いの緊張感がとれ、活動場面での雰囲気や行動が増えるとともに、活動場面では当事者同士の交流も見られている。

WINGの参加機会とあわせて、必要に応じて医師や個別相談担当者との面接を行い、状態にあわせた支援を行っている。

② プログラム（表4-17）

日時	内容	日時	内容
1回目 H29.4.6	ミーティング	12回目 H29.10.5	工場見学（アサヒビール吹田工場）
2回目 H29.4.20	ゲーム	13回目 H29.10.19	ミーティング
3回目 H29.5.18	DVD鑑賞（シン・ゴジラ）	14回目 H29.11.2	神戸市立森林植物園
4回目 H29.6.1	工場見学（キューピー神戸工場）	15回目 H29.11.16	ゲーム （人生ゲーム、黒ひげ危機一髪等）
5回目 H29.6.15	調理（チャーハン、水羊羹）	16回目 H29.12.7	クリスマス会 （調理、ビンゴ、プレゼント交換）
6回目 H29.7.6	スポーツ（卓球、バトミントン等）	17回目 H30.1.18	DVD鑑賞（銀魂）
7回目 H29.7.20	ミーティング	18回目 H30.2.1	工場見学（カップヌードルミュージアム大阪池田）
8回目 H29.8.3	手塚治虫記念館	19回目 H30.2.15	ミーティング
9回目 H29.8.17	調理（餃子作り）	20回目 H30.3.1	梅林公園 （岡本梅林公園、保久良梅林公園）
10回目 H29.9.7	神戸市立博物館	21回目 H30.3.15	調理（カレーうどん、たこ焼き）
11回目 H29.9.21	DVD鑑賞（君の名は。）		

③ 参加状況 (表 4-18)

	実 績
新規者数	3 名
実人数	14 名
延人数	201 名
平均人数	9.6 名
人数の分布	8～12 名
平均年齢	31.4 歳
年齢分布	24～40 歳
男女比 (男 : 女)	11 : 3

2) ひきこもり当事者の社会参加に向けたワークショップ (WING+F)

① 実施状況

目的：コミュニケーションスキルが不十分であることで生じる対人面の悩み等から、社会参加が難しくなることは、孤独感の増大や自己評価の低下につながる。そこで、ひきこもり当事者の社会参加（就労を含む）を支えていくために、コミュニケーションスキルを高める。

対象：当センターの精神保健福祉相談を受けた者のうち、以下の項目にあてはまる者。

- a. ひきこもりの問題を持つ当事者で、他の精神障害がその第1原因とは考えにくく、対人面の悩みから社会的参加が難しくなっている者
- b. 通所可能である者
- c. 思春期～30歳代の者
- d. 集団のルールを守ることのできる者
- e. コミュニケーションスキルを高めようと意欲がある者

実施状況：回数・・・12回（月1回 水曜日 13:30～15:30）

内容・・・メンバー主体でプログラムを考える（表4-19）

前年度までのプログラムは講義中心であったが、メンバーが主体的に考え行動する内容（WING+Fの活動内容を考える、広報作り、WINGの運営について考える等）を多く取り入れた。

メンバーから「新規のひきこもり当事者や家族に対して、WINGの活動を伝えたい」という意見が出たことから、絵や文章の得意なメンバーが中心となり、他のメンバーと協力しながらチラシと活動記録を作成することができた。待合室での展示や、関係者に説明するなど、活動についての理解を得ることで自信につながった。

外部機関への見学プログラムでは豊中市社会福祉協議会へ出向き、利用者が自分の強みを活かして活動し報酬を得ている姿を見て刺激を受け、今の自分を肯定的に捉えることにつながった。

また、臨時の活動として、当センターが主催している研修会の準備や片付け等の手伝いを行うことで、人の役に立つ経験をすることができた。

さらに、研修会（兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会における障害者就労をテーマにした講演会）に参加し、就労への意識も芽生え始めている。

② プログラム（表 4-19）

日時	内 容
1 回目 H29. 5. 10	WING+F での社会参加を考える①
2 回目 H29. 6. 14	WING+F での社会参加を考える②
3 回目 H29. 7. 12	WING+F での社会参加を考える③
4 回目 H29. 8. 9	広報作りをしよう①
5 回目 H29. 9. 13	広報作りをしよう②
6 回目 H29. 10. 11	広報作りをしよう③
7 回目 H29. 11. 8	広報作りを発表しよう
8 回目 H29. 12. 13	WING の運営について考えよう
9 回目 H30. 1. 17	防災について考えよう
10 回目 H30. 2. 14	豊中市社会福祉協議会見学
11 回目 H30. 3. 14	修了式
12 回目 H30. 3. 28	自主活動（お花見）

③ 参加状況（表 4-20）

	実 績
新規者数	1 名
実人数	9 名
延人数	72 名
平均人数	6.0 名
人数の分布	5～8 名
平均年齢	33.1 歳
年齢分布	25～40 歳
男女比（男：女）	8：1

3) ひきこもり当事者サロン (WING+S)

① 実施状況

目的：ひきこもり当事者グループで、就労支援機関や就労等に移行した者が、日ごろの息抜きやストレスの解消等のため集まれる場所を確保する。

対象：当センターのひきこもり当事者グループ (WING、WING+F) の卒業生。

実施状況：回数・・・12回 (月1回 土曜日 13:30～15:30)

内容・・・企画・運営は当事者の自主性に任せる (表 4-21)

平成 27 度から、ひきこもり当事者で、アルバイト等の就労へ移行した者が集まるサロンとして立ち上げた。立ち上げ当初は当センターのスタッフが入っていたが、当事者だけの時間を大切にしたいという声があり、現在は主に自主的な会として運営している。

日常生活に関する自分の困りごとや好きなことを話す等、当事者同士で交流することに楽しさを感じていることがうかがえる。

今年度は精神保健福祉士を目指す学生の実習の一環として、WING+S の活動内容、WING の活動に入ろうと思ったきっかけや、自分の趣味等についての質問を受け、答えることができた。当事者にとって、実習生の役に立つことができたという体験につながった。

② プログラム (表 4-21)

日時	内容	日時	内容
1 回目 H29. 4. 15	和室での会話	7 回目 H29. 10. 21	和室での会話
2 回目 H29. 5. 20	和室での会話	8 回目 H29. 11. 18	和室での会話
3 回目 H29. 6. 17	和室での会話	9 回目 H29. 12. 16	和室での会話
4 回目 H29. 7. 8	和室での会話	10 回目 H30. 1. 20	和室での会話
5 回目 H29. 8. 19	和室での会話	11 回目 H30. 2. 17	和室での会話
6 回目 H29. 9. 9	和室での会話 実習生からのインタビュー	12 回目 H30. 3. 17	和室での会話

③ 参加状況 (表 4-22)

	実績
新規者数	0 名
実人数	4 名
延人数	29 名
平均人数	2.4 名
人数の分布	1～3 名
平均年齢	38.3 歳
年齢分布	25～47 歳
男女比 (男：女)	3：1

4) ひきこもり家族教室

① 実施内容

目的：ひきこもりの問題を抱える家族が集い、ひきこもりに対する問題の理解や当事者の適切な対応について学ぶとともに、同じ体験を共有することにより心の安定を図り、本来の自立的機能を活性化させることができる。

対象：当センターの精神保健福祉相談を受けた家族で、ひきこもりの問題を抱え（精神障害が第1原因ではなく）、会への参加を希望する者。

実施状況：回数・・・11回（月1回木曜日 13:30～15:30）

内容・・・講義とグループワーク（表4-15）

ひきこもりの定義等について理解を深めた上、平成26年度から取り入れたCRAFT（ひきこもりの家族支援ワークブック）やアドラー心理学の考え方をを用いて、家族の当事者への関わりについての学習と課題に基づくグループワークを充実させた。

外部講師を活用したプログラムとして、ひきこもりと関連の深い発達障害についての講義や、兵庫ひきこもり相談支援センター丹波ブランチ（兵庫県篠山市）の運営者と利用者の体験談を聞き意見交換を行った。

家族教室に参加している家族同士の横のつながりが深くなり、プログラム終了後の3月に初めて家族のみの交流会を自主的に実施することができた。

② プログラム（表4-15）

日時	内容
1回目 H29. 5. 25	ひきこもりの理解（かかわり編） 講師：精神保健福祉センター職員
2回目 H29. 6. 22	CRAFT① CRAFTについて 講師：精神保健福祉センター職員
3回目 H29. 7. 27	講義「発達障害とひきこもり」 講師：精神保健福祉センター医師
4回目 H29. 8. 24	CRAFT② コミュニケーションの悪循環を整理する 講師：精神保健福祉センター職員
5回目 H29. 9. 28	CRAFT③ ポジティブなコミュニケーションスキルの獲得 講師：精神保健福祉センター職員
6回目 H29. 10. 26	CRAFT④ 先回りをやめ、しっかりと向き合う（課題の分離） 講師：精神保健福祉センター職員
7回目 H29. 11. 30	CRAFT⑤ 課題の分離と勇気づけ 講師：精神保健福祉センター職員
8回目 H29. 12. 21	CRAFT⑥ あなた自身の生活を豊かにする 講師：精神保健福祉センター職員
9回目 H30. 1. 25	兵庫ひきこもり相談支援センター丹波ブランチ（NPO法人結） ひきこもり当事者の体験談 講師：兵庫ひきこもり相談支援センター理事長、ひきこもり当事者
10回目 H30. 2. 22	CRAFT⑦ CRAFTまとめ 講師：精神保健福祉センター職員
11回目 H30. 3. 22	家族同士の交流会

③ 参加状況（表 4-16）

		実 績
参加者 (家族)	新規者数	0名 (0家族)
	実人数	21名
	延人数	122名
	家族数	18家族
	平均人数	11.0名
	参加人数の分布	8名～16名
	男女比 (男：女)	4：17
当事者	平均年齢	31.7歳
	年齢の分布	25歳～41歳
	男女比 (男：女)	15：3

5) 家庭内暴力家族の会（親に対する子どもの暴力）

① 実施内容

目的：家庭内暴力という問題を抱える家族が集い、暴力に対する問題の理解や当事者への適切な対応について学ぶとともに、同じ体験を共有することにより心の安定を図り、本来の自立的機能を活性化することができる。

対象：会への参加を希望する継続相談中の家族で、参加が適当と認められる者。

実施状況：回数・・・12回（月1回木曜日 13:30～16:00）

内容・・・グループワーク

兵庫県内では家庭内で暴力を受けている家族への集団指導の機会は少なく、精神保健福祉センターで実施する意義は大きい。

話し合いの内容は多岐にわたっている。新規参加者は子どもからの暴力や要求から心理的に混乱した状況にあり、具体的な対応を知りたいという内容が多い。長期参加者は暴力が落ち着いている状態にあり心理的に安定しているが、子どもの自立や家族関係のあり方などの内容が多い。

集団に所属していることで孤立感が和らいだり、同じような体験を経た参加者同士で声をかけあったり等、集団実施による効果は大きい。

平成29年度にリーフレット「家庭内暴力を理解するために」を作成する中で、家庭内暴力家族の会の意見を取り入れ、具体的な対応方法が入るなど使いやすい内容とすることができた。

② プログラム

専門医（精神科医）を中心とした話し合いを行い、専門医から1人1人に助言するとともに、家族同士が助言しあう。

③ 参加状況（表4-14）

		実 績
参加者 (家族)	新規者数	7名(5家族)
	実人数	32名
	延人数	170名
	家族数	27家族
	平均人数	14.2名
	参加人数の分布	5名～21名
	男女比(男:女)	9:23
当事者	平均年齢	31.1歳
	年齢の分布	20歳～50歳
	男女比(男:女)	24:3

6) 薬物問題家族教室

① 実施内容

目的：薬物問題で悩む家族等が、薬物依存症についての正しい知識と当事者への適切な対応方法を学ぶとともに同じ体験を共有することにより、心の安定を図り、本来の自助的機能を活性化させることができる。

対象：薬物依存症・乱用者の家族等
(原則として、参加前に当センターの精神保健福祉相談を受けた者等)

実施状況：回数・・・11回（原則月1回水曜日 13:30～15:30）

内容・・・講話と心理教育プログラム（表4-23）

外部講師による講話と職員による心理教育により、薬物依存症の理解を深め、家族の対処方法について学ぶことができた。

なお、平成23年度より心理教育を取り入れ、平成29年度は、近藤あゆみ氏ら作成のテキスト「薬物依存症者をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」に基づき、6月～11月に連続で講義を実施し、知識の定着を図るとともに、家族自身が元気になるためのセルフケアを取り入れた。家族は、本人への関わり方を整理するだけでなく、自身のセルフケアについても考える機会となった。

また、外部講師からの話は大変好評であった。①医師からは依存症という病気のメカニズム、②弁護士からは司法相談の活用や借金整理についての説明があった。また、③神戸ダルクからは当事者の立場からの理解、④NAからは先ゆく回復モデルの体験談、⑤ナラノンからは家族のあり方への助言を聞く機会になった。

② プログラム（表4-23）

日時	内容
1回目 H28.5.12	講話「薬物依存症について」 講師：ただしメンタルクリニック 院長 田中 禎 氏
2回目 H28.6.6	心理教育プログラム1 講師：国立精神・神経医療研究センター 近藤 あゆみ 氏
3回目 H28.7.5	心理教育プログラム2 講師：精神保健福祉センター職員
4回目 H28.8.2	心理教育プログラム3 講師：精神保健福祉センター職員
5回目 H28.9.6	心理教育プログラム4 講師：精神保健福祉センター職員
6回目 H28.10.4	心理教育プログラム5 講師：精神保健福祉センター職員
7回目 H28.11.1	心理教育プログラム6 講師：精神保健福祉センター職員
8回目 H28.12.6	講話「神戸ダルクヴィレッジについて」 講師：神戸ダルクヴィレッジ 梅田 靖規 氏
9回目 H29.1.10	講話「薬物関連問題にかかる法律相談」 講師：法律事務所ユノ 弁護士 西部 智子 氏
10回目 H29.2.7	NA メッセージ（当事者の体験談）と話し合い 講師：NA メンバー
11回目 H29.3.7	ナラノンメッセージ（家族の体験談）と話し合い 講師：ナラノンメンバー

③ 参加状況（表 4-24）

		実 績
参加者 (家族)	新規者数	9名 (5家族)
	実人数	22名
	延人数	87名
	家族数	18家族
	平均人数	7.9名
	参加人数の分布	4名～12名
	男女比 (男：女)	6：16
当事者	平均年齢	35.7歳
	年齢の分布	20歳～59歳
	男女比 (男：女)	13：2

6 組織育成（自主組織主体の行事や会議などで精神保健福祉センターが研修会を実施）

県内の精神保健福祉関係団体や組織への支援・協力を行っている。

センター内に事務局をおく兵庫県精神保健福祉協会・兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会については共催で研修会を開催した。（表 5-1）

表 5-1 各組織への支援状況

セルフヘルプグループ		兵庫県精神保健福祉協会		兵庫県精神障害者就労支援事業所連合会		その他		合計	
回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員	回数	人員
12	64	4	464	10	171	29	274	55	973

7 精神医療審査会事務

兵庫県精神医療審査会は、入院中の精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療及び保護を確保する観点から、昭和 63 年度より設置されている。また、平成 14 年度より審査会の事務は精神保健福祉センターで行うこととされた。

入院患者からの退院や処遇改善の請求に関する電話相談及び定期病状報告書等の書類審査については年々増加の傾向にある。電話相談では、退院請求や処遇改善請求に至らなかったケースについて、必要に応じて病院指導・健康福祉事務所への情報提供を実施した。

- (1) 業 務：医療保護入院届並びに措置入院、医療保護入院の定期病状報告書の書類審査。
精神科病院に入院中の方及びその家族等からの退院請求・処遇改善請求の審査。
- (2) 合議体：25名の委員を各班5名の5班体制をとっている。
各班の委員の構成は、医療委員3名・法律家委員1名・保健福祉委員1名である。
- (3) 全体会：年1回以上開催し、審査会の運営に関する必要な事項を定めている。

表 6-1 開催状況

	実施回数	定 数	委嘱人員	出席人員
精神医療審査会（全体会）	1	25	25	17
精神医療審査会（合議体）	45	5人×5 合議体	25	223

表 6-2 審査状況

	審 査 結 果		
	件 数	適 当	不 適 当
医療保護入院者入院届	5,301	5,301	0
医療保護入院者定期病状報告書	2,173	2,173	0
措置入院者定期病状報告書	27	27	0
退 院 請 求	45	41	4
処 遇 改 善 請 求	12	9	3
合 計	7,558	7,551	7
電 話 相 談	3,706		

(注)電話相談については精神医療審査会に報告した件数である。

表 6-3 相談・指導

入院患者	家 族	医療機関	健康福祉 事務所	市町	そ の 他	合 計
1,470	65	874	54	44	39	2,546

8 自立支援医療(精神通院医療)及び精神障害者保健福祉手帳の判定・交付

自立支援医療(精神通院医療)及び精神障害者保健福祉手帳については、平成14年度より精神保健福祉センターで判定・交付事務を行っている。

また、平成18年4月1日に「障害者自立支援法」が施行され、「通院医療公費負担制度」は「自立支援医療(精神通院医療)」に再編された。年に1回の更新申請毎に必要な診断書の提出は、平成22年4月1日以降、病状の変化及び治療の変更がなければ2年に1度の提出で可能となった。

さらに平成25年4月1日より「障害者自立支援法」が「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」とされた。

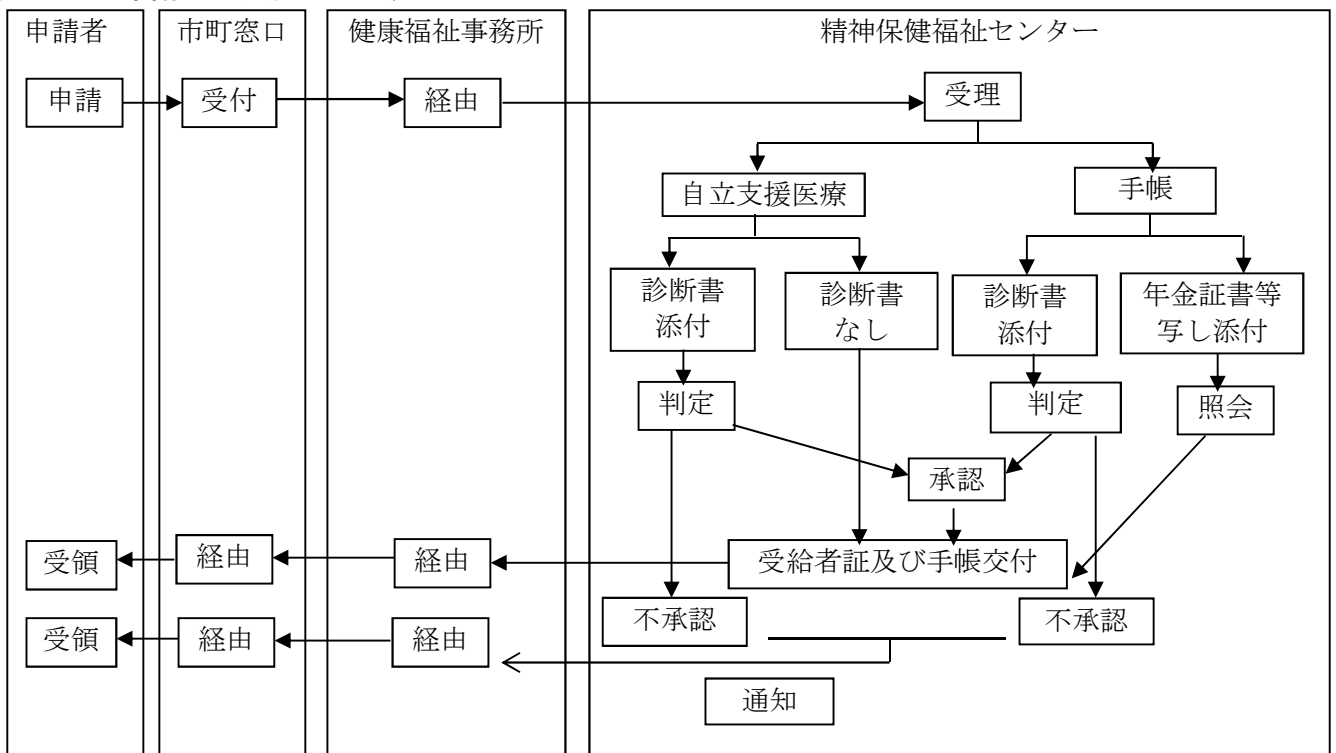
自立支援医療(精神通院医療)及び精神障害者保健福祉手帳の年度末所持者数は、年々増加している。

(1) 業務 自立支援医療(精神通院医療)については適否を審査し、承認する場合は受給者証を交付する。

精神障害者保健福祉手帳については、医師の診断書添付による申請の場合は、手帳交付の可否の審査及び障害等級の判定を行い、年金証書等の写しによる申請の場合は、年金事務所などへ照会し、年金の等級に応じた手帳を交付する。

自立支援医療(精神通院医療)、精神障害者保健福祉手帳いずれも不承認の場合は、居住地を管轄する健康福祉事務所・市町窓口を經由し申請者へ通知する。

図7-1 申請から交付までの流れ



- (2) 判定委員会 委員構成：委嘱委員 4 名と内部委員 3 名の計 7 名の委員で構成し、その他、予備委員を若干名置いている。
開催状況：原則毎月 2 回開催しており、平成 29 年度は合計 24 回開催した。

表 7-1 判定件数

	件 数	承 認	不 承 認
精神障害者保健福祉手帳	19,910	10,787	123(41)
自立支援医療（精神通院医療）	34,953	34,953	0

() 内は、等級変更申請の不承認数（再掲）

表 7-2 交付件数及び年度末所持者数

	交 付 件 数	年度末所持者数	
		1 級	2 級
精神障害者保健福祉手帳	15,503 ※ (4,675)	27,033	3,399
			15,357
			8,277
自立支援医療（精神通院医療）	58,290 ※ (23,337)	52,734	

() 内は、精神障害で年金受給・県外からの転入等のため判定をせずに交付した件数（再掲）

表 7-3 相談・指導

健康福祉 事務所	市 町	医療 機関	年 金 事務所	共 済 組 合	申 請 者 (当事者)	家 族	その他	合 計
118	2,047	234	5	0	141	42	108	2,695

9 自殺対策

平成 18 年度制定の自殺対策基本法に基づいた「兵庫県自殺対策推進方策」に沿って自殺対策を展開している。

平成 29 年 4 月に「自殺対策センター」から「兵庫県のいのち対策センター（いのち対策室と精神保健福祉センター）」に改称し、自殺に関する総合支援として、個別相談及び集団指導、健康福祉事務所等への技術支援、研修事業の実施、自死遺族支援の推進、普及啓発、情報発信を実施するとともに、当センターの本来業務である精神保健福祉業務を強化、推進することにより自殺対策をすすめている。

(1) 個別相談・集団指導

<個別相談>

- ①精神保健福祉相談（自殺関連の相談件数 36 件）※医師相談含む
- ②所内電話相談（自殺関連の相談件数 108 件）
- ③こころの健康電話相談（全国統一ダイヤルに参画）（自殺関連の相談件数 205 件）

<集団指導>

		平成 29 年度実績	
		実施回数	参加者数 (延)
当事者	ひきこもり当事者グループ	21 回	201 名
	ひきこもり当事者の社会参加に向けたワークショップ	12 回	72 名
	ひきこもり当事者サロン	12 回	29 名
家族	ひきこもり家族教室	11 回	122 名
	家庭内暴力家族の会	12 回	170 名
	薬物問題家族教室	11 回	87 名

(2) 健康福祉事務所等への技術支援

- ① 自殺やうつ等の対策を推進しようとする健康福祉事務所及び市町等へ技術支援
(自殺関連の技術支援数 57 回)

<内容>

- ・人材育成：ゲートキーパー研修、事例検討
- ・基盤づくり：G-P ネット、地域・職域連携、庁内庁外体制連絡会
- ・健康福祉事務所及び市町が主催する研修や啓発講演会等への講師派遣
- ・健康福祉事務所及び市町の取り組み状況のまとめを作成、配布 等

- ② 市町・事業所等で自殺が起きた場合のポストベンション（事後対応）

影響を強く受けている同僚等に対して、メンタルヘルス研修会や個別面接を行うとともに、事業場におけるメンタルヘルス対策についての助言。

(3) 研修事業の実施

- ① 自殺対策企画研修（平成 29 年 12 月 26 日 69 名）
＜対象＞健康福祉事務所及び市町（神戸市除く）の自殺対策担当職員等
＜内容＞市町自殺対策計画に向けた地域診断と対策
～企画・立案・評価について～
- ② 自殺未遂者ケア研修（平成 29 年 9 月 2 日 123 名）
＜対象＞自殺未遂ケアに関わる関係機関職員（医療、保健、警察、消防、福祉関係者等）一般県民
＜内容＞地域で取組む自殺未遂者ケアと遺族支援
- ③ 思春期関連問題研修会第 1 回（平成 29 年 9 月 5 日 78 名）
＜対象＞ひきこもりなど児童思春期関連問題の相談に従事している者（医療・保健・教育・福祉・就労関係者等）
＜内容＞ひきこもりの理解と支援
- ④ 思春期関連問題研修会第 2 回（平成 30 年 1 月 23 日 102 名）
＜対象＞ひきこもりなど児童思春期関連問題の相談に従事している者（医療・保健・教育・福祉・就労関係者等）
＜内容＞ひきこもり状態にある本人への支援
事例を通して、ひきこもり状態にある本人への支援を学ぶ
- ⑤ 依存症関連問題研修会（平成 30 年 3 月 3 日 110 名）
＜対象＞依存関連問題に携わる関係機関職員（医療・保健・教育・福祉・司法関係者等）、一般県民
＜内容＞依存症からの回復
～アルコール・薬物・ギャンブルの依存について～

(4) 自死遺族支援の推進

- ① 自死遺族支援団体へのコンサルテーション（随時）
- ② 自死遺族支援リーフレットの配布（随時）

(5) 普及啓発、情報発信など

- ① 各種団体への講師派遣等
- ② 精神保健福祉センター及び自殺対策センターのホームページによる情報発信（県の自殺対策・地域での取り組み・相談窓口・講演会などの情報の発信等）
- ③ 各種リーフレットの作成、配布
 - ・しおり（精神保健福祉関係機関等便覧）の配布
 - ・ゲートキーパー手帳及び要約版の配布
 - ・自死遺族支援リーフレットの改定・配布
 - ・薬物依存症に関するリーフレットの配布
 - ・アルコール依存症に関する冊子の増刷・配布

10 依存症対策センター

平成30年1月4日より、兵庫県と神戸市は、専用電話回線により、「ひょうご・こうべ 依存症対策センター」を開設し、依存症に関する当事者及び家族等の電話相談を開始した。

依存症相談の専用ダイヤル

電話受付曜日：火曜日～金曜日（祝日及び年末年始を除く）

受付時間：午前9時30分～11時30分、午後1時00分～3時30分

※土曜日がハッピーマンデー（成人の日、海の日、敬老の日及び体育の日）又は振替休日（祝日が日曜日にあたる時のその翌日）の場合、その前の週の土曜日は休館。

専用電話番号：#7330（悩みされ）または078-251-5515

相談担当者：県および神戸市の相談員を配置

表 8-1 相談者の内訳

相談者	件数	%
本人	23	33.3
家族	45	65.2
その他	1	1.4
合計	69	100.0

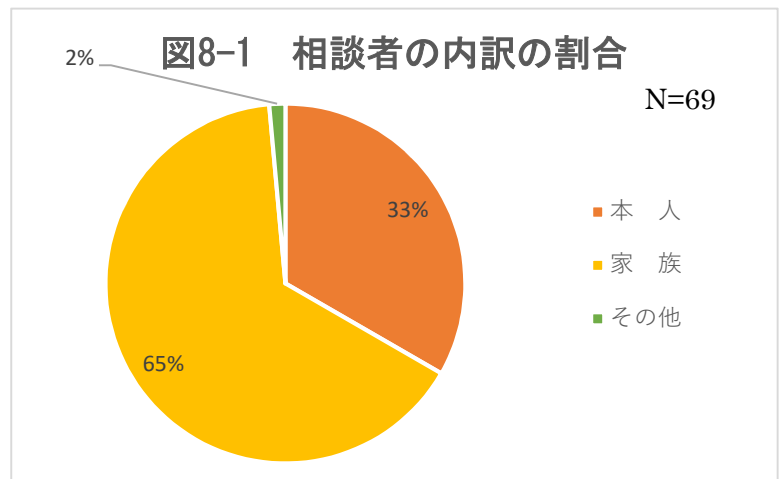


表 8-2 相談時間の内訳

相談時間 (分)	件数	%
～15	34	49.3
16～30	18	26.1
31～45	15	21.7
46～60	2	2.9
合計	69	100.0

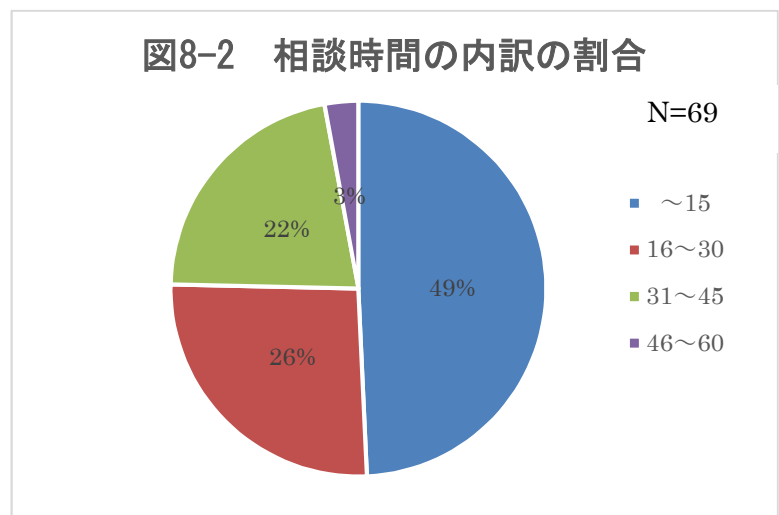


表 8-3 相談者の年齢の内訳

年 齢	件 数	%
20～29 歳	1	1.4
30～39 歳	6	8.7
40～49 歳	17	24.6
50～59 歳	21	30.4
60～69 歳	12	17.4
70 歳以上	8	11.6
不 明	4	5.8
合 計	69	100.0

図8-3 相談者年齢の内訳の割合

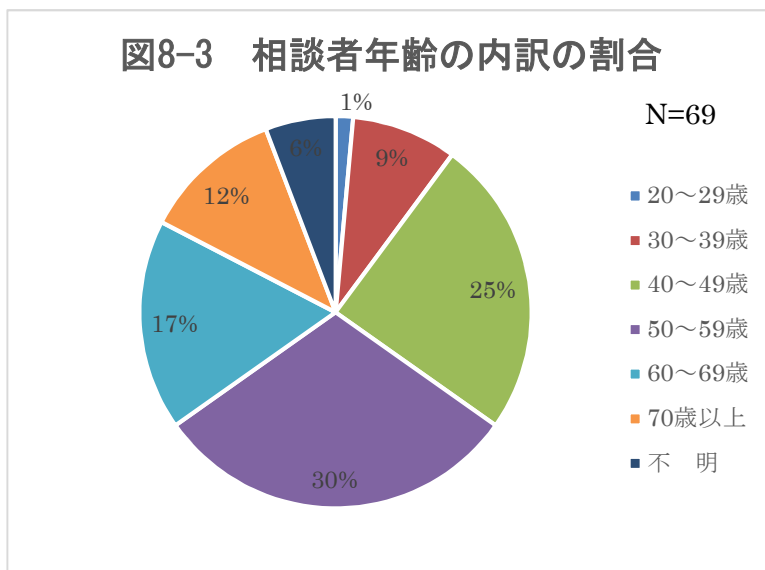


表 8-4 相談者の性別

性別	件 数	%
男	19	27.5
女	50	72.5
合 計	69	100.0

図8-4 相談者性別の内訳の割合

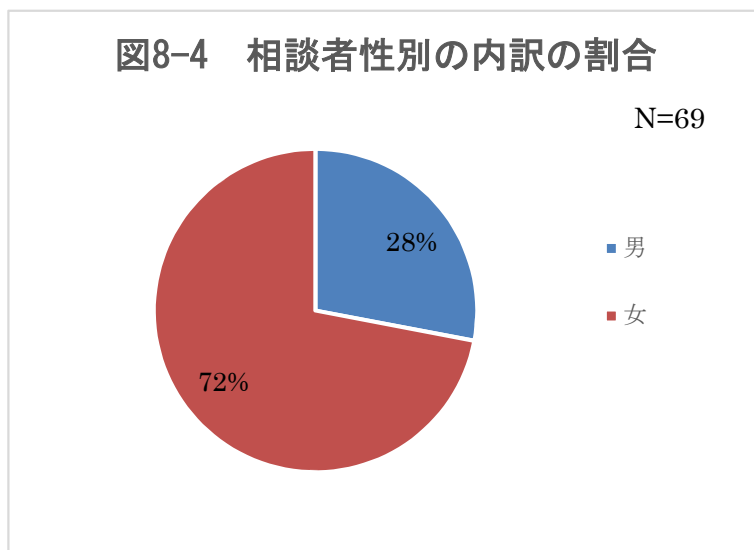


表 8-5 当事者の年齢内訳

年 齢	件 数	%
10～19 歳	3	4.3
20～29 歳	10	14.5
30～39 歳	9	13.0
40～49 歳	16	23.2
50～59 歳	12	17.4
60～69 歳	8	11.6
70 歳以上	5	7.2
不 明	6	8.7
合 計	69	100.0

図8-5 本人年齢の内訳の割合

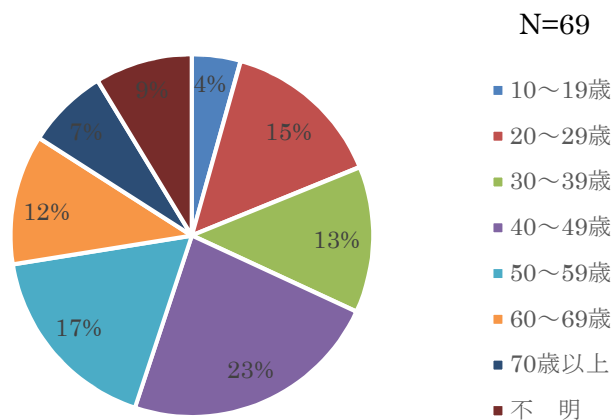


表 8-6 当事者の性別

性別	件 数	%
男	30	43.5
女	39	56.5
合 計	69	100.0

図8-6 本人の性別の割合

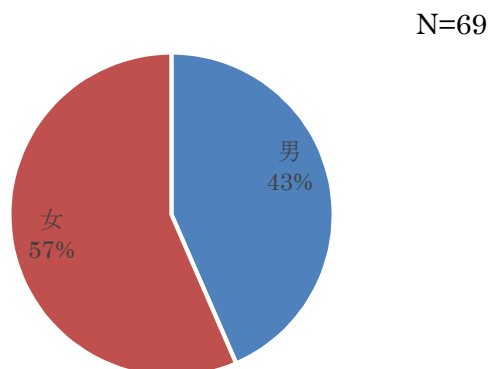
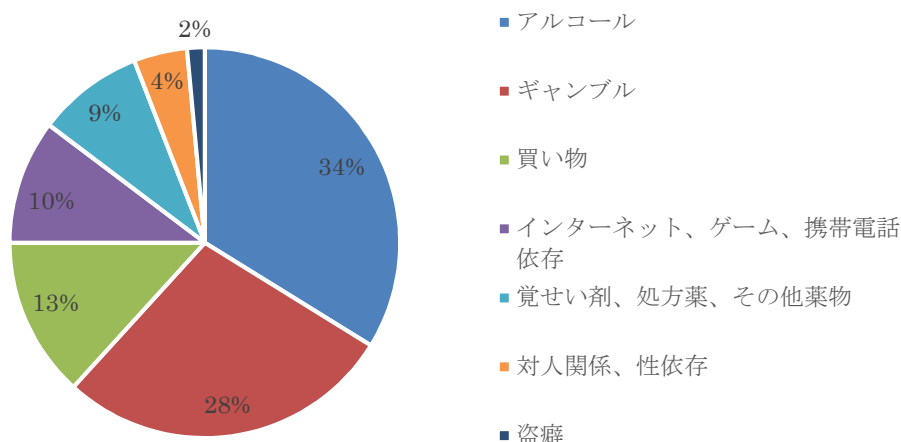


図 8-7 相談内容の内訳 (全 68 件)

相談内容	件数	%
アルコール	23	33.8
ギャンブル	19	27.9
買い物	9	13.2
インターネット、ゲーム、携帯電話依存	7	10.3
覚せい剤、処方薬、その他薬物	6	8.8
対人関係、性依存	3	4.4
盗癖	1	1.5
合 計	68	100.0

図8-7 依存症の相談内容の割合

N=68



処遇の内訳 ※重複あり

相談内容	件数	%
医療機関紹介	39	43.8
自助グループ紹介	17	19.1
主治医に相談	12	13.5
健康福祉事務所(保健所)等 相談窓口紹介	10	11.2
訴えの傾聴	4	4.5
助言指導	2	2.2
中断	2	2.2
医学的指導	1	1.1
保健福祉等社会資源情報提供	1	1.1
その他	1	1.1
合 計	89	100

III 資 料

1 ビデオ目録

A 精神疾患・地域活動

No.	タイトル		上映時間
A-1	(家族のための分裂病講座) 正しい知識は、回復への道	VHS	15分
A-3	(家族のための分裂病講座) 知っておきたい薬の知識	VHS	15分
A-4	老年期の精神保健 うつ病	VHS	24分
A-5	老年期の神経症	VHS	21分
A-6	私たちは家族～アメリカ家族会発展の秘密	VHS	25分
A-7	今ここに生きる～精神障害者と共に	VHS	30分
A-9	ここにおいでよ～精神障害者を支える地域作業所	VHS	30分
A-10	ひとりぼっちをなくそう～精神障害者本人の会	VHS	40分
A-11	そよ風はどこにでも～地域精神保健の実態 ①いつでも どこでも だれにでも	VHS	30分
A-12	そよ風はどこにでも～地域精神保健の実態 ②くらす はたらく つどう	VHS	45分
A-13	あちこたねえ (大丈夫) 精神障害者の地域生活支援	VHS	30分
A-14	ともに生きる／篠山保健所みちくさの会作業所	VHS	
A-15	ともに幸せに生きるために～心の病と社会復帰への道～	VHS	20分
A-17	「ベリー・オーディナリーピープル」予告編 その② (三度の飯よりミーティング)	VHS	90分
A-18	「ベリー・オーディナリーピープル」予告編 その④ (安心してさぼれる会社作り)	VHS	90分
A-19	「ベリー・オーディナリーピープル」予告編 その⑥ 《リハビリテーションより商売(コミュニケーション)》	VHS	35分
A-20	ひらく かける つなぐ ～精神保健ボランティア～ 第1巻 いっしょにいこうよ ～広がるボランティアの輪～	VHS	35分
A-21	ひらく かける つなぐ ～精神保健ボランティア～ 第2巻 スタンドバイミー ～もっとちかくに～	VHS	45分
A-22	精神障害者ケアマネジメント 第1巻解説編	VHS	38分
A-23	精神障害者ケアマネジメント 第2巻実際編	VHS	48分
A-24	SST の実際 基本訓練モデル 初級編	VHS	22分
A-25	夢をかたちに V a fair wind ～その先に見えるもの～ 紀南障害者就業・生活支援センター	VHS	
A-26	癒しの揺りかご～精神科医療・偏見を乗り越えて～	VHS	26分
A-27	今日の精神科入院医療～心の病気を克服するために～	VHS	27分
A-28	あせらずにゆとりをもってむりしない～病気・くすり・くらし～(前編)	VHS	38分
A-29	あせらずにゆとりをもってむりしない～病気・くすり・くらし～(後編)	VHS	30分
A-30	わかちあい まなびあい ささえあい～精神障害者家族会の活動～	VHS	30分

A-31	連携とは／実践で見えてきたもの ～映像とインタビューで構成する市町村の役割	VHS	60分
A-32	分裂病の理解のために 第1巻 病気の症状について	VHS	14分
A-33	分裂病の理解のために 第2巻 病気の原因について	VHS	15分
A-34	分裂病の理解のために 第3巻 治療法について～薬による治療	VHS	14分
A-35	分裂病の理解のために 第4巻 治療法について～心理社会的治療	VHS	15分
A-36	分裂病の理解のために 第5巻 地域で暮らす	VHS	15分
A-37	摂食障害者の自助グループ NABA 活動編「映像版・いいかげんに生きよう」	VHS	22分
A-38	NHK きょうの健康「統合失調症 進む医療」2004年6月23・24日放送	VHS	
A-39	2002 第1回精神障害者就業支援中央セミナー	VHS	
A-40	強迫的ギャンブル回復施設 ワンデーポート	VHS	10分
A-41	精神保健福祉ビデオシリーズⅡ 共生の時代へ ～参加と協働への相互支援の方法とシステム～ 1 参加と協働 ～相互支援の方法システム～	VHS	19分
A-42	精神保健福祉ビデオシリーズⅡ 共生の時代へ ～参加と協働への相互支援の方法とシステム～ 2 精神障害者地域生活支援センター ～役割と機能～	VHS	24分
A-43	精神保健福祉ビデオシリーズⅡ 共生の時代へ ～参加と協働への相互支援の方法とシステム～ 3 クラブハウス	VHS	26分
A-44	精神保健福祉ビデオシリーズⅡ 共生の時代へ ～参加と協働への相互支援の方法とシステム～ 4 ピアカウンセリング	VHS	26分
A-45	ピアカウンセリングセミナー DVD (DISC1～3) ピアカウンセリングを共に学ぶ仲間作り 基礎編	DVD	D1 116分 D2 97分 D3 71分
A-46	家族・本人のための統合失調症講座 正しく理解し、回復を目指そう～統合失調症の症状と治療～	VHS	20分
A-47	家族・本人のための統合失調症講座 薬の作用と上手な付き合い方～統合失調症の薬物治療～	VHS	20分
A-48	家族・本人のための統合失調症講座 この街で自分らしく生きる～社会資源の活用と家族の役割～	VHS	20分
A-49	助けを求めない人をどう援助するか 否認の心理とイネイブリング	VHS	32分
A-50	助けを求めない人をどう援助するか 上手な介入の実際	VHS	52分
A-51	精神障害を持つ人の退院準備プログラム (ワークブック、リーダー用マニュアル)	DVD	110分
A-52	「リカバリー」障害者自立を支える世界的潮流	DVD	27分
A-53	ACT は地域精神医療を変えるか	DVD	37分
A-54	希望への階段 さつき工房を支えた連携とネットワーク	DVD	36分
A-55	地域での生活を目指して～退院促進支援事業～	DVD	28分

A-56	「地域で暮らしたいね」を支援するために 地域体制整備コーディネーターの業務に関する研修用映像	DVD	85分
A-57	統合失調症の人の回復力を高める家族のコミュニケーション (3本セット)	DVD	86分
A-58	第1巻 回復力を高める接し方		
A-59	第2巻 ドラマで学ぶ回復力を高める会話		
A-60	第3巻 家族SSTの進め方		
A-61	ともに支え、ともに歩む～精神障害者就労の現場から～	DVD	32分
A-62	人生のバゲージカートー抱えている荷物は何ですか？	DVD	
A-63	高次脳機能障害のリハビリテーション 第1巻 高次脳機能障害とは何か 第2巻 高次脳機能障害を生きる 第3巻 就労支援の現場から	DVD	30分 79分 54分
A-64	うつ病 DVD 第1巻 うつ病って何だろう 第2巻 うつと生きる 第3巻 ふたたび職場へ	DVD	70分 104分 82分
A-66	2014年 世界精神保健デー 統合失調症と共に生きる	DVD	
A-67	うつ病 自殺を防ぐ！うつ病対策	DVD	84分
A-68	うつ病 あなたに合った治療法	DVD	43分
A-69	躁うつ病のことを もっと知りたい！	DVD	120分
A-70	本人・家族のための新しい！統合失調症	DVD	220分

B 子ども・虐待関係

No.	タイトル		上映時間
B-1	子ども虐待防止対策ビデオ「MCGとは何か」ー東京・世田谷区の取り組みー	VHS	19分
B-2	子育てに自身をなくしているあなたへー南多摩保健所からの発信ー	VHS	18分
B-3	SIDSから赤ちゃんを守るために～小さな灯を守って～	VHS	
B-4	子どものうつ病 その症状と対処法	DVD	52分

C アルコール関連問題

No.	タイトル		上映時間
C-1	アルコールと循環器	VHS	20分
C-2	肝臓とアルコール代謝	VHS	30分
C-3	アルコールと健康障害～こころと体に良い飲み方	VHS	14分
C-4	酒飲み上手は生き上手	VHS	16分
C-5	お酒と人生ー飲み方・酔い方・楽しみ方	VHS	16分
C-6	あと一杯が飲めるか～ソーシャルドリンカーへの手引き～	VHS	30分
C-7	アルコールキッドー今、お酒には触れないで	VHS	11分
C-8	未成年者とアルコール (保健体育・特別活動教材)	VHS	23分
C-9	アルコールの害～10代の飲酒問題	VHS	28分

C-10	アルコールの害～女性とストレス（薬物・アルコール依存）	VHS	21分
C-11	中高年者とお酒	VHS	12分
C-12	老化と飲酒	VHS	30分
C-13	（お年寄りとアルコールの対策）アルコール依存症は病気です	VHS	22分
C-14	（お年寄りとアルコールの対策）お年寄りとお酒の付き合い方	VHS	28分
C-15	（ビデオで学ぶアルコール依存症）（1）アルコール依存症の概要	VHS	30分
C-16	（ビデオで学ぶアルコール依存症）（2）ケース事例	VHS	30分
C-17	（ビデオで学ぶアルコール依存症）（3）専門職の活動	VHS	30分
C-18	（シリーズ・アルコール依存症）アルコール依存症とは	VHS	27分
C-19	（シリーズ・アルコール依存症）アルコール依存症者の心理	VHS	20分
C-20	（シリーズ・アルコール依存症）家族の心理	VHS	20分
C-21	（シリーズ・アルコール依存症）アルコール依存症からの回復	VHS	25分
C-22	（シリーズ・アルコール依存症）酒なし生活術	VHS	20分
C-23	未成年にアルコールなんか知らない ～アルコール健康教育をどう教えるか～	VHS	36分
C-24	未成年者とアルコール 成長期の脳への影響	VHS	26分
C-25	女たちの回復～女性のアルコール依存症～	VHS	40分
C-26	アルコール依存症 第1巻 アルコール依存症とは	DVD	
C-27	アルコール依存症 第2巻 アルコール依存症者の心理	DVD	17分
C-28	アルコール依存症 第3巻 家族の心理	DVD	21分
C-29	アルコール依存症 第4巻 アルコール依存症からの回復	DVD	25分
C-30	アルコール依存症 第5巻 酒なしの生活術	DVD	17分
C-31	助けを求めない人をどう援助するか 第1巻	DVD	32分
C-32	助けを求めない人をどう援助するか 第2巻	DVD	52分
C-33	女たちの回復 ～女性のアルコール依存症～	DVD	40分
C-34	動機づけ面接 トレーニングビデオ日本版「導入編」解説書	DVD	
C-35	動機づけ面接 トレーニングビデオ日本版「応用編」解説書	DVD	
C-36	あなたの大切な人お酒の関係 アルコール依存症の理解と対応	DVD	24分
C-37	信田 さよ子 講演会 問題を抱えた家族への援助と支援の実際	DVD	61分
C-38	ブリーフ・インターベンション	DVD	

D 薬物依存

No.	タイトル		上映時間
D-1	薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」	VHS	21分
D-2	「ダメ。ゼッタイ。君」の薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」スクール	VHS	20分
D-3	手の中の悪魔	VHS	25分
D-4	事例に学ぶーこんなとき、あなたならどうしますか？	VHS	20分
D-5	薬物乱用社会の実相	VHS	27分
D-6	薬物依存 孤独そして絶望からの脱出	VHS	30分
D-6	薬物依存 孤独そして絶望からの脱出	DVD	30分
D-7	「大切にしよう！心とからだ」シリーズ第2巻	VHS	20分

シンナー・覚せい剤・ドラッグ			
D-8	さらば、哀しみのドラッグ～No という勇気を持つよう～	VHS	22分
D-9	薬物乱用	DVD	
D-10	出所後の道しるべ～薬物を使わない新たな人生に向かって～	DVD	
D-11	薬物依存症 すぐそばにある現実（家族用）（2枚組）	DVD	D1 86分 D2 81分
D-12	薬物依存症 すぐそばにある現実	DVD	
D-13	“依存症”からの回復	DVD	59分
D-14	第1巻 “依存症”とは何か		
D-15	第2巻 回復への道		
D-15	第3巻 家族を支える		63分
D-16	依存症と共依存	DVD	77分
D-17	動機づけ面接法 講座Ⅰ【一般向け】（2枚組）	DVD	
D-18	動機づけ面接法 講座Ⅱ【援助職の専門家向け】（3枚組）	DVD	

E 認知症・高齢者

No.	タイトル		上映時間
E-1	すこやかに老いるために～老年期痴呆の治療と予防	VHS	30分
E-2	痴呆性老人の家庭介護（1）痴呆の理解と支援サービス	VHS	
E-3	痴呆性老人の家庭看護（2）家庭介護の実際		
E-4	だれにでもできる寝たきり老人の介護	VHS	60分
E-5	「からだ（健康）づくり」と「スポーツ」 いつでもどこでもだれでもできるからだづくり（高齢者の方ができる体操） 新しいスポーツで楽しい仲間づくり （高齢者が手軽に行える新しいスポーツの紹介）	VHS	33分
E-6	睡眠と健康～お年寄りの不眠と対策	VHS	20分
E-7	痴呆性高齢者の地域ケア～最後まで自宅で暮らし続けられるために～ 基調講演	VHS	55分
E-8	可能な限り在宅で暮らし続けることを目指す セッション1	VHS	118分
E-9	地域を支えるケア・地域に支えられるケア セッション2	VHS	116分
E-10	サテライトケアの地域展開 セッション3	VHS	122分
E-11	痴呆性高齢者を支えるネットワーク作り セッション4	VHS	120分
E-12	痴呆性高齢者ケアを担う人材 セッション5	VHS	101分
E-13	グループホームにおける長期ケア セッション6	VHS	121分
E-14	認知症の人と一緒に生きる	DVD	68分

F ストレス関連

No.	タイトル		上映時間
F-1	あなたの心元気ですか～高校生の心の健康～	VHS	20分

F-2	中年からのストレス	VHS	13分
F-3	ストレスと疲労をとろう～あなたを狙う不快の銃弾	VHS	14分
F-4	中・高年期の精神保健	VHS	22分
F-5	管理・監督者のためのストレスマネジメント（解説編）	VHS	16分
F-6	管理・監督者のためのストレスマネジメント（事例編）	VHS	25分
F-7	自律訓練法の実際	VHS	30分
F-8	こころだって風邪を引く～メンタルヘルス対策を進めよう！～	VHS	41分
F-9	災害と心のケア	VHS	43分
F-10	職場でのメンタルヘルス 第1巻 メンタルヘルスの知識	VHS	38分
F-11	職場でのメンタルヘルス 第2巻 メンタルヘルスの事例集	VHS	27分
F-12	職場でのメンタルヘルス 第3巻 働く女性のメンタルヘルス	VHS	27分
F-13	リスクマネジメントとしてのメンタルヘルス 第I集 メンタルヘルス不全による労働損失と安全配慮義務	VHS	24分
F-14	リスクマネジメントとしてのメンタルヘルス 第II集 休職、そして復職へ	VHS	26分
F-16	新メンタルヘルス 部下の異変に気づいたら	VHS	24分
F-17	ストレスは「心のカゼ」です	VHS	29分
F-18	睡眠保健指導 Vol.1 睡眠保健指導の意義と重要性	DVD	23分
F-19	睡眠保健指導 Vol.2 個別睡眠保健指導 －行動変容を促す保健指導の実際－	DVD	25分
F-20	スッキリ睡眠でイキイキと ～快眠へ誘う8つのポイント～	DVD	36分
F-21	いろいろ応用できる認知行動療法（NPO 法人コンポ）	DVD	120分
F-22	いろいろ応用できる認知行動療法（大野 裕）	DVD	120分
F-23	あなたの会社を力強く育てるための快適職場づくり 職場のメンタルヘルス・基本編	DVD	43分

G 健康教育テレビ

No.	タイトル		上映時間
G-1	静かなアルコール依存症～アルコール依存のはじまり～	VHS	15分
G-3	やせすぎは黄信号～若い女性の拒食症～	VHS	15分
G-4	「思いあたりませんか？こころの疲れ」～ストレスの影響～	VHS	15分
G-5	ともに働く社会を求めて	VHS	15分
G-6	地域で暮らす。楽しく過ごす。精神障害者の生活の広がりを目指して	VHS	15分
G-7	アルコール 飲む前によく知る	VHS	15分

H ひきこもり

No.	タイトル		上映時間
H-1	ひきこもり完全脱出マニュアル 第1講 初級入門編 こうすれば子どもと対話ができる	VHS	60分

H-2	ひきこもり完全脱出マニュアル 第2講 思春期対応編 不登校とひきこもり	VHS	60分
H-3	ひきこもり脱出マニュアルシリーズ 第3講 ケーススタディ編「精神障害とひきこもり」	VHS	110分
H-4	ひきこもりからの回復 第1巻 私がひきこもった理由～回復のヒントを探る～ 第2巻 我が子がひきこもったとき～家族の役割と支援～ 第3巻 あなたは一人じゃない～様々な支援の形・地域編～	DVD	91分 73分 72分

I その他

No.	タイトル		上映時間
I-1	報道特集 2005.11.13 初取材！精神科救急～医師と看護師の苦悩～	VHS	
I-2	悲しみの向こうに 大切な人を失って (グリーフサポート)	DVD	10分
I-3	自殺対策マニュアル	DVD	
I-4	交通事故被害者の抱える問題とその精神的影響自助グループの進め方 —精神的被害からの回復のために—	DVD	
I-5	自殺予防～わたしたちにできること～自殺対策	DVD	
I-6	自死(自殺)への理解を深める ～タギーセンターに通う子ども・家族の声から～	DVD	
I-7	こころのサインに気づいたら—ゲートキーパー養成研修用 ～悩んでいる人との向き合い方について～	DVD	172分
I-8	こころのサインに気づいたら—ゲートキーパー養成研修用 (講義編 DISK1・資料編 DISK2)	DVD	D1 91分 D2 91分
I-9	こころのサインに気づいたら—ゲートキーパー養成研修用	DVD	D1 91分 D2 154分
I-10	こころのサインに気づいたら—ゲートキーパー養成研修用 (被災地対応編)	DVD	152分
I-11	こころのサインに気づいたら—ゲートキーパー養成研修用 (地域対応編・心得編)	DVD	144分
I-12	みんなの思い届けて～犯罪被害者遺族等の声～	DVD	67分
I-13	心に悩みを抱えた患者の支援～ゲートキーパーとしての薬局・薬剤師～	DVD	13分 14分 14分
I-14	発達障害の人の可能性を広げよう！	DVD	105分
I-15	摂食障害からの回復 本人・家族にできることを考える	DVD	114分
I-16	摂食障害者の自助・ピアサポートグループ 活動紹介映像 映像版「いいかげんに生きよう」	DVD	20分

2 パネル目録

アルコール関連問題啓発用パネル

- ① アルコール注意報
- ② 飲酒による身体への影響
- ③ アルコールによる肝臓障害
- ④ ご存じでしたか？アルコールの体内での消失時間
- ⑤ 自分の体質を知ろう！
- ⑥ 「イッキ」飲みと急性アルコール中毒・・・
- ⑦ 未成年者とアルコール
- ⑧ こころあたりはありませんか？ ～アルコール依存症の兆候～
- ⑨ アルコール依存症の進行過程
- ⑩ アルコール依存症の回復過程 ～飲酒しない生活スタイルの確立～

《貸し出し方法》

ビデオ・パネルは関係機関に対し、貸し出しを行っています。

ご利用の際は、お電話で申し込んでください。

郵送の場合の送料は、ご負担ください。

兵庫県精神保健福祉センター年報（平成 29 年度）

発行：兵庫県精神保健福祉センター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通 1 丁目 3-2

TEL (078) 252-4980 (代)